

1つ1つの研究の  
積み重ねを未来につなぐ



新潟県中学校教育研究会

創設60周年記念  
特別記念号

# 新潟県中学校教育研究会 指定研究の授業情報誌

第8号 2023

- 県中教研創設60周年を迎えた今、50周年から60周年の10年間の研究の歩みを紹介
- 早稲田大学教職大学院教授・田中博之様の「深い学び」についての特別寄稿の紹介
- 教科・領域の指定研究による「深い学びにいたる授業」の提案を紹介

# Class

## 深い学びにいたる授業

授業情報誌 Class・深い学びにいたる授業

第8号 2023

新潟県中学校教育研究会

新潟県中学校教育研究会

# Class

深い学びにいたる授業

第8号 2023年10月

(県中教研創設60周年記念特別記念号)

ISSN 2189-8111

新潟県中学校教育研究会 創設60周年記念  
50周年から60周年の10年間の研究の歩み

**指定研究推進事業**  
新潟県教育全体の教科・領域研究をチームで推進!

**授業情報誌 Class**  
地区、都市で研究に取り組まれた先生方の研究の成果を共有

**深い学びにいたる授業**

「GIGA スクール構想」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実  
「思考力、判断力、表現力等」を発揮させる働きかけ  
学びを最大限に引き出す  
生徒の「学び」をつなげる  
これからの時代に必要で、資質・能力を身に付けた生徒の育成

3つの資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」  
「深い学び」の育成  
何を学んでいるか、何を学べるか、何を学ぼうとしているか、何を学ばなければならないか、何を学ばなければならないか、何を学ばなければならないか

**学び合う授業づくり「主体的・対話的で深い学び」へ**

「見方・考え方」を働かせる  
「見方・考え方」を働かせる  
教科などでは物事を捉える視点や考え方を働かせて、教科の本質に迫る!

単元・題材で目指す「深い学び」と「深い学び」になるポイントを紹介  
「見方・考え方」に軸置き、「深い学び」になる授業」によって、生徒に「深い学び」を身に付けさせる  
「深い学び」になる授業」によって、生徒に「深い学び」を身に付けさせる  
「深い学び」になる授業」によって、生徒に「深い学び」を身に付けさせる

21世紀  
論議  
批判  
コミュニケーション

ファシリテーション → 学び合う授業

ISSN 2189-8111

# 新潟県中学校教育研究会 創設60周年記念

50周年から60周年の10年間の研究の歩み

## 指定研究推進事業

新潟県教育全体の  
教科・領域研究を  
チームで推進!



## 授業情報誌 Class

地区、郡市で研究に  
取り組まれた先生方の  
研究の成果を共有

課題解決的・問題解決的、  
探究的な単元題材設定

3つの資質・能力  
「知識及び技能」  
「思考力、判断力、表現力等」  
「学びに向かう力、人

学びに向かう力 人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送

資質・能力の育成

何を知っているか/何が出来るか — 知っていること・できること

知識・技能

思考力・判断力・表現

## 学び合う授

論点整理

アクティブ・ラーニング

学習指導要領改訂

改善

講義型授業

対話  
おもしろい

## ファシリテーション → 学

# 新潟県中学校教育研究会

【令和5年度】

会長 五十嵐守男(上越市立城西中学校 校長)

副会長 逸見 東子(新潟市立小針中学校 校長)

副会長 伊藤 法生(長岡市立東中学校 校長)

理事長 佐藤 靖子(新潟市立内野中学校 校長)

新潟県中学校教員を会員とする教育研究団体です。昭和38年度に発足しました。令和5年度に創設60周年記念を迎えました。

県中教研は県下に19の郡市中教研があり、また、15の教科・領域の部があります。その中から毎年20～18の郡市と教科・領域を指定し、2年間で授業を研究し、提案する「指定研究」を行っています。

授業情報誌 第8号(創設60周年記念特別記念号)

## Class・深い学びにいたる授業

発行日 令和5年10月1日

発行者 新潟県中学校教育研究会 事務局  
〒950-0088 新潟市中央区万代1-3-30  
万代シテイホテルビル  
(シルバーホテル)3階

TEL・FAX 025-290-2251

E-mail ken-ckk@niigata-inet.or.jp

印刷 有限会社東京プリント社

創設60周年記念ロゴデザイン 佐藤 靖子(県中教研理事長)

表紙・デザイン・イラスト 上村 慎吾(県中教研事務局)

ISSN 2189-8111

「GIGA スクール構想」、  
個別最適な学びと「協働的な学び」の  
一体的な充実

「思考力、判断力、表現力等」を  
発揮させる働きかけ

学びを最大限に  
引き出す



個々に合った学び

1人1台端末活用

様々な他者との協働

## 生徒の「学び」を つなげる

これからの時代に必要な  
資質・能力を身に付けた  
生徒の育成



## 深い学びにいたる授業

間性等

るか

をどう使うか  
力等



「見方・考え方」を  
働かせる

## 「見方・考え方」

教科ならではの物事を捉える  
視点や考え方を働かせて、  
教科の本質に迫る!



## 業づくり 「主体的・対話的で深い学び」へ



## 21世紀学力

論理的思考力、  
批判的思考力  
コミュニケーション能力等



単元・題材で目指す「深い学びの姿」と  
「深い学びにいたるポイント」を紹介

「見方・考え方」に着目し、  
「深い学びにいたる学び合う授業」によって、  
生徒に確かな資質・能力を育む研究活動

パンデミックでも学びを止めない努力・工夫、  
授業・研鑽・準備を頑張る教師

学び合いで資質・能力を高め、  
主体的・対話的で深い学びを創る

知識及び技能の質を高める考え方、  
授業づくりで学び合う授業や  
教師の学び合いを見つめ直す

学び合う授業の考え方、  
教師の全員参加型の構想検討会

まひは、FTで教師が「学び合おう」  
そしてFTで「学び合う授業」を創ろう!

## 学び合う授業



新潟県中学校教育研究会

●今年度の研究会を実施する指定研究チームが提案する授業を紹介します。

# 創設60周年記念新規事業

## 新潟県中学校教育研究会のホームページが新しくなります！

### 何が新しくなる？（一部紹介）

- デザインを一新し、見やすさ、使いやすさを重視しました！スマホ、タブレット画面にも対応
- 「授業づくり」のコーナーを新設し、先生方の授業づくりに役立つ情報を発信します！  
 (例) 国の最新の教育情報  
 指導要領の一覧  
 学習評価に関する参考資料  
 特別支援教育の情報  
 校内研修に役立つサイト  
 など



【新URL & QRコード】

<https://niigata-chukyoken.jp/>



新潟県中学校教育研究会

# 新潟県中学校教育研究会 指定研究の授業情報誌

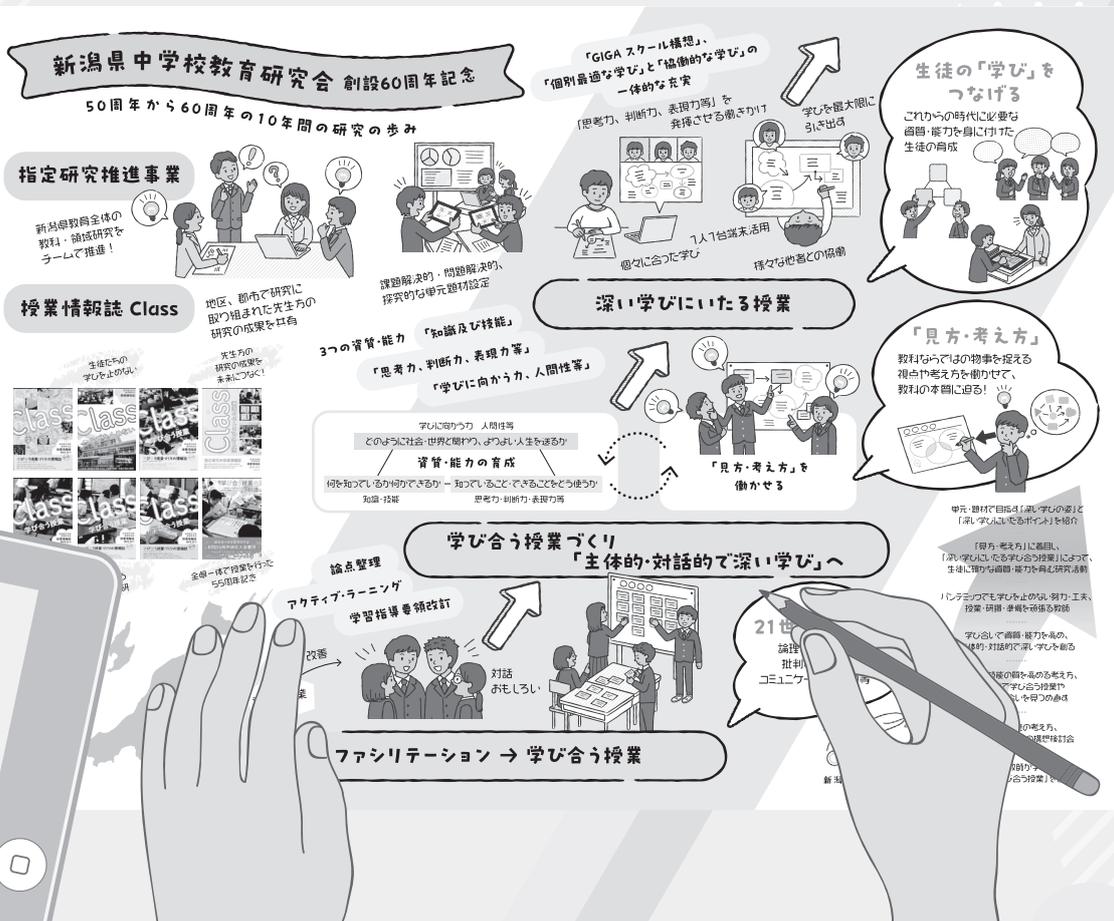
第8号 2023

創設60周年記念  
特別記念号

- 県中教研創設60周年を迎えた今、50周年から60周年の10年間の研究の歩みを紹介
- 早稲田大学教職大学院教授・田中博之様の「深い学び」についての特別寄稿の紹介
- 教科・領域の指定研究による「深い学びにいたる授業」の提案を紹介

# Class

## 深い学びにいたる授業



授業情報誌 Class 第8号発刊にあたって

# 生涯学びつづける 人づくりの場、授業

新潟県中学校教育研究会は創設60周年を迎えます。これまでの研究で「学び合い」「単元・題材構想シート」「見方・考え方に着目した授業」などを視点に「深い学び」を目指す授業づくりが、数多く提案されてきました。

今年度は、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく生徒を育てる中学校教育」を研究主題に据え、「深い学びにいたる授業」モデルを各教科・領域で探っています。それぞれの指定教科・領域の部会では、「『目指す深い学びの姿』とは、どのような姿か」を問い直すことから始め、「深い学び」にいたるポイントや過程を協議しています。

また、発表会当日の授業だけでなく、事前撮影した映像を基にした協議会の実施も報告されています。授業参観の協議会では、本時の授業についての授業者の反省と質疑応答が中心になりがちですが、一単元を通した記録映像により、生徒の変容を確認することができました。また、本時の教師の発問や手立てなどが、一単元を貫くものとして適当であったかを、話し合えたことは、研修の質を高める上でも、意義があったと考えています。

## 本来の研修をより効果的に進めるためのICTの活用推進と運営の工夫

感染症禍では、移動や参集の制限が課せられていたことにより、本来の目的がより明確に捉えられ、研修の形や内容に変化が見られました。従来 of 研究会では、会場設営や接待など運営面に大きな力が注がれていることも少なくありませんでした。しかしながら、オンライン方式の活用や研究会の運営の省力化により、協議会に時間やエネルギーを充てられるようになったことは大きな変化だと言えます。研究会に当たっては、参集型が増えてきますが、付随する業務の省力化を一層推し進め、本来の研修を充実させていくことが必要だと考えています。限られた時間を有効に使い成果を上げることを意識することが、働き方改革にもつながります。各教科・領域の研究では、授業づくりに向けた研修を進めるとともに、研修の持ち方についての取組や工夫を発信してほしいと思っています。

新潟県中学校教育研究会

副会長 逸見 東子

(新潟市立小針中学校 校長)



## 生徒がワクワクする授業づくり

30年以上前の所属学年1学年朝会での学年副主任の話です。

「先日、人気のゲームソフトが売り出されました。ニュースによると、そのゲームソフトを手に入れようと徹夜で並んでいたそうです。徹夜してゲームを手にした若者は『眠いけど家に帰ったら、すぐにゲームをして、早くクリアしたい。今日も徹夜になると思います。』と答えていました。

私は、そのニュースを見て、『私の授業はどうかなあ?』と考えました。徹夜とは言わないけれど、授業をワクワクしながら楽しみに待っている人はいるのかな? ゲームを越えることはできないけれど、いつか、私もそのゲームに近づける授業をしてみたいと思います。」

当時ゲームに夢中になった生徒は、その後どのような行動をとったのかに興味を沸いてきます。

- ・ゲームのキャラクターに関心を持ち、絵を描いたり、フィギュアをつくったり、別の物語を創作したりした。
- ・BGMに関心を持ち、楽器を演奏したり、アレンジをしたりした。
- ・プログラム作成に関心を持ち、ゲームを自作した。                   ほか

様々な興味や関心・行動の広がり、同じ興味を持つ人との交流などが想像できます。ゲームによる負の側面が強調されがちですが、自らが選択し、熱中したことには、時間もエネルギーも費やし取り組むことができます。

生徒が心から学びたいと思い、待ち遠しいと感じる授業。ゲームには及ばないかもしれませんが、多くの人を熱中させるゲームの要素(惹きつける導入、明確なゴール、様々な難易度の課題設定、課題解決のための複数の攻略法、スモールステップでの課題解決、どんでん返し、場面転換…)は授業づくりの参考になると思います。

生徒が心待ちにする授業の実現に向け、この中教研の機会を生かして、私たち自身がワクワクしながら研修を進め、新たな取組に挑戦しつづけていくことが大切なのではないのでしょうか。

## 目次

巻頭言 第8号発刊にあたって	
生涯学びつづける人づくりの場、授業	2
新潟県中学校教育研究会 副会長 逸見 東子	
特別寄稿	
中学校における深い学びの在り方とこれからの授業改善の方向	6
早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之	
新潟県中学校教育研究会 創設60周年記念 ご案内	13
《指定研究推進都市および2年次研究会 会場校》	14

## ① 指定研究チームが提案する深い学びにいたる授業

### 社会

社会的な見方・考え方を働かせ、深い学びにいたる授業づくり	16
県中教研 社会科部 全県部長 小森 一秀	
「民主政治と日本の政治」	18
上越地区／上越市中教研	
「地方自治と住民参加」	20
中越地区／三条市中教研	
「3年地方自治」「2年中部地方」「1年アジア州」	22
新潟地区／新潟市中教研	
「1年：アフリカ州」	24
下越地区／新発田市中教研	

### 理科

「ああ、そういうことか」、「私、間違っ覚えてたなあ」と、 わかり直しができる授業	26
県中教研 理科部 全県部長 大川 正史	
「3年：地球と宇宙（天体の動きと地球の自転・公転）」	28
上越地区／柏崎市刈羽郡中教研	
「2年：電流と電圧」	30
中越地区／長岡市三島郡中教研	
「2年：電流・電圧と抵抗」	32
新潟地区／新潟市中教研	
「1年：光の性質」	34
下越地区／五泉市東蒲原郡中教研	

### 英語

外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方を働かせた学びの過程を！	36
県中教研 英語部 全県部長 中野 博史	

「3年：The Great Pacific Garbage Patch」	38
上越地区／上越市中教研	
「1年：Unit 6,7 My Hero」	40
中越地区／燕市西蒲原郡中教研	
「3年：I Have a Dream」	42
新潟地区／新潟市中教研	
「2年：Live Life in True Harmony」	44
下越地区／村上市岩船郡中教研	

## 音楽

「思い」や「意図」を確かにしながら、豊かに表現する生徒の育成	46
県中教研 音楽部 全県部長 上村 みほ	
「『思い』や『意図』をもって歌唱表現を工夫しよう」 混声三部合唱 あなたへ ～旅立ちに寄せるメッセージ～	48
中越地区／十日町市中魚沼郡中教研	
「言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう」 ～ご当地CMソングをつくろう～	50
下越地区／佐渡市中教研	

## 保健体育

豊かなスポーツライフの実現を目指した保健体育の授業づくり	52
県中教研 保健体育部 全県部長 北山 智博	
「2年：武道（柔道）」	54
上越地区／上越市中教研	
「1年：心身の機能の発達と心の健康」	56
新潟地区／新潟市中教研	

## 学校保健

自分の心身の健康について見つけ、課題解決を目指した健康教育	58
県中教研 学校保健部 全県部長 高橋 由子	
「受け止めよう！友達の『悩みの種』」	60
中越地区／長岡市・三島郡中教研	
「心身の機能の発達と心の健康（エ）ストレスへの対処」	62
下越地区／阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研	

## 2 指定研究1年次の進捗状況

国語	65
数学	66
道徳	67
美術	68
技術・家庭	68
特別活動	69
総合的な学習の時間	69

## 3 15部会の重点目標

編集後記 新潟県中学校教育研究会 理事長 佐藤 靖子	72
----------------------------	----

## 〈特別寄稿〉

# 中学校における深い学びの在り方と これからの授業改善の方向



早稲田大学教職大学院  
教授 田中 博之

3年近く続いたコロナ禍もようやく落ち着き始め、学校での教育活動が平常に戻ってきた。新しい学習指導要領が目指している授業改善の指針である「主体的・対話的で深い学び」の実現が、ようやく各学校での実践研究のテーマになっている。

休校や学年閉鎖がある中での「教科書を終えるための一斉指導」や「感染予防のための対話活動の制約」「理由や根拠を粘り強く考えない浅い学び」から脱却して、新しい学習指導要領の改訂の趣旨を生かした取組の創意工夫が今こそ求められている。

その意味で、2023年度は実質的に「新学習指導要領元年」といいよい。研究指定校などでは、すでに「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」という新しいテーマに移行しつつあるが、「主体的・対話的で深い学び」の深い解釈に基づく授業実践の在り方を改めて考えることも大切なのではないだろうか。そのための具体的な授業づくりの方向性を検討してみたい。

## 1 「深い学び」の定義をとらえ直す

まず、「深い学び」とは何なのか、その定義を中央教育審議会答申という原点に戻って今一度確認しておきたい。

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

(中央教育審議会答申、2016、pp.50)

ここで大切にされているのは、次の5点である。

- ① 習得・活用・探究という学びの過程で、「深い学び」を実現すること
- ② 児童生徒が「見方・考え方」を働かせること
- ③ 4つの学びのタイプ（知識の関連付け、考えの形成、問題の発見と解決、創造）を行うこと
- ④ 資質・能力の三つの柱を活用・発揮して思考すること
- ⑤ 教える場面と思考・判断・表現させる場面を関連させて指導すること

この中で、①については「学びの深さ」によって生徒たちの学習の姿を、基礎・基本の学びから生徒主体の課題解決的な学習までのバランスを大切にしている点で評価できる。④と⑤についても、多様な資質・能力のバランスの取れた育成、そして、意図的・計画的な指導と主体的な学習のバランスの取れた授業デザインと教育的配慮の在り方を示したものとして大切な視点である。

しかし、新しく提案された「見方・考え方」については、文部科学省から教科・領域別の具体的な教え方や学び方が示されていないことや、答申の別紙1で示された「見方・考え方」のイメージの例示があまりにも抽象的で、小学生や中学生の発達段階を無視したものであることから、いまだにほとんどの学校や教育委員会では納得感のある理解も授業の工夫もほとんどなされていないという現状である。

さらに、③についても、これらの4つのタイプの学習活動は一見すると「深い学び」として捉えられそうであるが、よく考えるとそれぞれ浅い思いつきレベルでも取り組むことができるものであることから、これだけで「深い学び」を保障することはできない。

つまり、新しい学習指導要領が提案する「深い学び」は、政策的なスローガンとしては成立しているが、実際の学校の授業場面では、「これが本当に深い学びだ！」と納得できる形では具体化されていないのである。このままでは、改訂の趣旨が絵に描いた餅になってしまう。

## 2 アクティブ・ラーニングの5つの誤解を解く

2016年末の中央教育審議会答申が出るまでの過程では、周知の通り、現在の「主体的・対話的で深い学び」ではなく、「アクティブ・ラーニング」というアメリカの大学の授業改善の用語が使われていた。しかし、最終答申では、「アクティブ・ラーニング」がなくなり、改訂の柱に「深い学び」を入れた。そうした判断をした理由の一つは、「アクティブ・ラーニング」をめぐる誤解を解きたいという意図があったと推測される。

中央教育審議会答申が出るまでの間に、アクティブ・ラーニングの特徴について次のような5つの誤解があった。

- ・講義式授業以外のすべての学習方法はなんでもアクティブ・ラーニングである
- ・アクティブ・ラーニングを実施する利点は、生徒が寝なくなることである
- ・アクティブ・ラーニングの特徴は、子どもたちが教室中を歩き回ることである
- ・アクティブ・ラーニングのねらいは、受験問題集を解いて進学実績をあげることである。
- ・アクティブ・ラーニングとは、対話型を入れた授業のことである。

このような5つの特徴は、どれも中央教育審議会答申や新学習指導要領には書かれていないが、教育学関連の複数の識者が、公にされた論考の中で強く主張していたものである。「アクティブ」と「ラーニング」の間の中黒点のあるなしを問わず、この5つの特徴をもつ学習を実施してしまうと、「浅い学び」になることを危惧したと考えられる。

### 3 「見方・考え方」をめぐる疑問点を整理する

「主体的・対話的で深い学び」という3つの学びの姿の中で、「主体的な学び」と「対話的な学び」はかなりよく理解できるが、「深い学び」については、なかなか具体的な授業や指導場面・学習場面のイメージをもちにくいという評価が、前節で述べたようにほぼ学校や教育委員会のレベルでは定着しているといえるだろう。

そのわかりにくさには、文部科学省による「深い学び」の定義の中にある用語と関わって、次のような3つのタイプがある。

1つめは、「見方・考え方」とは何だろうか、という疑問である。これまで、算数・数学科ではこの用語をすでに使っていたが、他教科等ではわかりにくさがぬぐえない。これは、各教科の特質をふまえた理解の仕方や認識の仕方を示しているため、高度すぎて理解しにくいだけでなく、文部科学省から具体的な定義や参考例が出ていないのでわかりにくいのである。

2つめは、「見方・考え方」を働かせる場面である、「知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすること」は、これだけで学びの深さが保障されるわけではないことである。

さらに、3つめとして、「『見方・考え方』を働かせながら」という表現が入っているが、「働かせる」ためには、すでに生徒たちが「習得・定着」していることが前提である。しかし、「見方・考え方」は小学生や中学生にとってはとても高度な認識レベルの思考操作であるため、実際の授業場面では、生徒にとってそれを主体的・対話的に「働かせる」ことはできないのではないかという疑問が生まれてくる。

こうした3つの疑問は、全国で筆者が訪問したどの学校や教育委員会の指導主事からも聞かれている。これは、何とかしなければ学習指導要領の改訂の趣旨が生かされないまま終わってしまう。

### 4 「深い学びの技法」を提案する

そこで筆者は、以上の疑問や問題点を解決するべく、フィンランドで提唱されている「学び方を学ぶ (Learning how to learn)」という考え方を参考にして、授業中に生徒が実際に学んで活用できる「深い学びの技法」を15個提案し、具体的な授業事例とともに詳しく解説している(田中、2017)。

具体的には、「深い学びの技法」とは、学んだ知識を活用して課題や目標を設定する、視点・

観点・論点を設定して思考や表現をする、複数の資料や観察結果の比較から結論を導く、視点の転換や逆思考をして考える、学んだ知識や技能を活用して思考や表現をする、友だちと練り合いや練り上げをする、原因や因果関係、関連性を探る、理由や根拠を示して論理的に説明する、既製の資料や作品を批判的に吟味検討する、学んだことを生かして次の新しい課題を作る、などである。

言葉づかいはやや難しいが、各教科・領域で学期に一つの重点単元を設定し、その中で「深い学びの技法」を3つから4つ選んで組み合わせて実施することを提案したい。こうした深い学びの技法を活用した深い学びが生まれるような授業づくりをめざして校内研究授業を推進して欲しい。

それでは、次にいくつかの「深い学びの技法」を紹介し、その特徴について解説してみたい。

### 技法1 既有知識を活用して思考や表現をする

「深い学び」では、既習の基礎的・基本的な知識・技能を活用して問題解決をしたり、創作表現をしたり、実技実習を行ったりする。既習の知識・技能を活用せずに、0から考えて勘や思いつきで課題を解決するのではない。

どのような知識も先哲たちが先行研究をしっかりとふまえて、それに積み上げる形で新しい研究をして連綿として蓄積してきたものである。したがって、「深い学び」で生徒を研究者に見立てて、知識を再発見したり再構成したりする能動的な活動をさせるときには、ただ結果として教科書に書かれた答えとしての知識を毎回新たに教えて覚えさせるのではなく、生徒が既存の知識・技能を活用してできる限り自分たちで規則性や法則、原因や因果関係を発見させることが望ましい。

### 技法2 複数の資料や実験・観察結果の比較から結論を導く

中央教育審議会答申や新学習指導要領の総則の解説などに、「読解力」がすべての学習の基盤となる資質・能力（教科等横断的な資質・能力）として提唱されるようになったのは、明らかに2000年から始まった、OECDのPISA調査（読解力）で日本の子どもたちの成績がよくなかったからである。

PISA型読解力の特色の一つは、複数の資料や実験・観察結果をもとにそれらを比較して、共通点や相違点、関連性を検討してしっかりとした結論を出すことである。ここで、「複数の」というところがポイントになっていて、21世紀社会では一つの資料を精読して判断を下すだけでなく、複数の資料やデータに基づいて判断をする時代なのである。

そこで授業においては、教科書教材だけを精読するのではなく、関連教材を比べ読みすることで共通点と相違点を深く読み取ることや、既習の資料の内容と新たに実施した実験や観察のデータを比較して結論を導くことなどが考えられる。

### 技法3 友だちと練り合いや練り上げをする

「主体的・対話的で深い学び」の真骨頂ともいえる学習活動は、この技法にあげた「友だちと練り合いや練り上げをする」ことである。たんに初発の感想や考えをもつだけでなく、下書きの文章をそのまま清書するのでもなく、ペアやグループでの対話を通して、考えや作品、パフォーマンスを練り上げていくことが、「深い学び」になる。

練り合いと練り上げによる「深い学び」によってこそ、一人ひとりの学びも協働的な学びも修正と改善を通してよりよいものに生まれ変わる。社会で活躍する専門家、例えば作家や研究者は推敲や校正を通して文章を書き換えるし、スポーツ選手は練習と試合で技を磨く。したがって、中学生も、修正力や改善力を身につけておくことが必要である。

### 技法4 視点の転換や逆思考をして考える

自然現象や社会事象、そして人間の心情などは、複雑で多面性を持つものであることから、その特徴を詳しく知るためには、視点を変えてみたり、異なる方法をいろいろと試してみたり、逆の方向から考えてみるとうまくいくことがある。

例えば、光には粒子という性質と波という性質の両方をあわせもっていることがわかっているし、織田信長の業績は天下統一であるという反面で堺や京都の商人からすると過大な税金を取られ焼き討ちにあうという被支配の歴史でもある。

このように、視点を変えたり逆から見たりすると、思ってもいない真実が明らかになったり、興味深い事実やドラマが浮かび上がってくるものが少なくない。したがって学校教育ではそのために必要な思考の柔軟性や可塑性を育てる「深い学び」が大切になる。

### 技法5 異なる多様な考えを比較して考える

同じ問題を解くときにも、異なる多様な解決方法がある。同じ社会事象を見ても人によって価値観の違いから異なる意見が存在する。それぞれの方法や意見を並列しておくだけでなく、比較思考によってそれぞれのよさや問題点をしっかりと検討し自分の考えた解決方法や意見をより強固なものへと高めていくことが大切である。たとえば、レポートを書く授業では友だちの多様な意見を比較しながら、それぞれの特徴やメリットとデメリットを主体的・対話的に検討して、自分の意見を深めることができる。その際に、ワークシートで意見の違いを対比させるレイアウトの工夫をしたり、観点を明確にして比較検討したり、反対意見に対する反論を用意させたりすることが大切である。

### 技法6 理由や根拠を示して論理的に説明する

「深い学び」では、思いつきでなんとなく考えたことを話すのではなく、理由や根拠を資料やデータを引用しながらわかりやすく説明することが大切である。論理的で科学的な説明をする力を、「深い学び」で育てる資質・能力にしたい。

## 技法7 既製の資料や作品を批判的に吟味検討する

既製の資料や作品の正しさや根拠をそのまま受け取るのではなく、他の資料やデータにあたって批判的に検討することも大切である。

これについてよく行われているのは、いわゆるメディアリテラシーの授業である。新聞の社説やテレビ報道番組、TVコマーシャルや新聞広告を比較して読んだり視聴したりしながら、それぞれの立場や特徴を浮き上がらせ、それについての批評を書いたり、批評的なスピーチをする。メディア時代に生きる私たちが、メディアからの情報を鵜呑みにせず、自分の判断力で正確に深く読み解く力を身につけることが大切になっている。

フィンランドでは、授業で使う資料に意図的な細工をしてわざと誤情報を組み入れておいて、それを指摘させるといった授業があるほどである。

## 技法8 原因や因果関係、関連性を探る

次の「深い学び」の技法は、自然現象や社会事象などの表面的な特徴だけでなく、その原因や因果関係、他の現象や事象との関連性について探ることである。その中でも特に、中学校の社会科は暗記教科になりやすく、社会事象の現象面の背後にある原因や因果関係、他の事象との関連性を生徒が発見する授業がなかなか行われにくい状況がある。

そこで、学習課題には「なぜ？」を取り入れて原因や因果関係を考えさせたり、「どのような関係性があるか探ってみよう」という課題を設定して複数の資料を関連づけて考えさせたりしてみることが大切である。

その際には、原因や因果関係などを考える活動は難しいため、資料を読み解く視点をヒントとして与えたり、資料を比較すると原因が発見できるほどのやさしい資料を選んだりするなどの工夫や配慮が必要になる。そして生徒が発見したことはグループ間で発表して教え合いをうながすようにするわけである。なお必要に応じて最終的には短い講義をして知識の定着を図っても構わないが、ワークシートを工夫することにより生徒同士の教え合いでしっかりと知識を身につける習慣を付けることも大切である。

## 技法9 視点・観点・論点を明確にして思考や表現をする

これは、すべての技法と関連しているが、生徒が思考・判断・表現をするときには、ただ漫然と考えたり対話したりするのではなく、視点・観点・論点を明確にして焦点化した思考や表現をすることが大切である。

このことによって、思考や表現が改善されやすくなり、より「深い学び」が生まれる。生徒が使う視点・観点・論点は、可視化して見やすくするとともに、それを活用した課題解決をうながすことが大切である。

なお、現在では、「深い学びの技法」を20個に増やしている。参考文献にあげた、『アクティブ・

ラーニング「深い学び」実践の手引き』（教育開発研究所、2017年）の書籍の関連ウェブサイトから一覧表のファイルをダウンロードしていただければ幸いです。

以上のような「深い学びの技法」を3つか4つ組み合わせて、授業で生徒に活用してもらうことで、「深い学び」を実現して、生徒に探究的な資質・能力を育てることに繋げていきたい。そのための研究授業を充実していくことを、心から期待したい。

#### 【参考文献】

田中博之著『フィンランド・メソッドの学力革命』明治図書出版、2008年

田中博之著『学級力が育つワークショップ学習のすすめ』金子書房、2010年

田中博之著『アクティブ・ラーニング「深い学び」実践の手引き』教育開発研究所、2017年

田中博之著『「主体的・対話的で深い学び」学習評価の手引き』教育開発研究所、2020年

田中博之著『高等学校 探究授業の創り方』学事出版、2021年

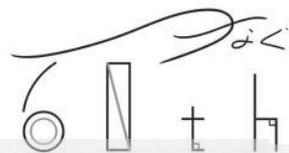
Anniversary

# 新潟県中学校教育研究会

## 創設 60周年記念

新たな時代を切り拓く県中教研  
～深い学びのこれから～

### 御案内



新潟県中学校教育研究会

## ハイブリッド開催！

オンラインLIVE配信  
オンデマンド配信

より多くの会員の皆様が、  
開会式、トークセッション、  
講演会を視聴できます！

### 【当日の日程】

13:00～13:30受付

13:30～14:20開会式、トークセッション  
\*トークセッションでは、会員代表の方が「深い学び」  
について語り合います。

14:35～16:05記念講演会  
早稲田大学教職大学院 教授 田中博之 様

16:20～17:00記念式典



記念講演会  
講師

早稲田大学教職大学院 教授

田中 博之 様

演題：深い学びのこれから（仮）

期日：令和5年 | 12月 | 8日(金) |

会場：万代シルバーホテル

【お申し込み】  
各学校に送付いたしました  
御案内をご確認ください。

対面参加またはオンライン参加  
のどちらかを御希望いただけま  
す。

【お問合せ】  
新潟県中学校教育研究会 事務局 上村慎吾  
〒950-0088  
新潟市中央区万代1-3-30 万代シティホテルビル3階  
TEL・FAX：025-290-2251  
E-mail：ken-ckk@niigata-inet.or.jp

# 指定研究推進郡市および2年次研究会 会場校

## ◇ 令和4・5年度指定 (上段より：指定研究推進郡市、研究会会場校、研究会開催日)

	上越	中越	新潟	下越
社会	上越 (上越市立清里中学校) 10月17日(火)	三条 (三条市立第一中学校) 11月28日(火)	新潟 (新潟市立宮浦中学校) 11月9日(木)	新発田 (新発田市立本丸中学校) 11月7日(火)
理科	柏崎・刈羽 (柏崎市立第一中学校) 11月28日(火)	長岡・三島 (長岡市立北中学校) 11月21日(火)	新潟 (新潟市立小針中学校) 11月9日(木)	五泉・東蒲 (阿賀町立阿賀津川中学校) 11月10日(金)
英語	上越 (上越市立八千浦中学校) 11月2日(木)	燕・西蒲 (燕市立吉田中学校) 11月10日(金)	新潟 (新潟市立早通中学校) 11月9日(木)	村上・岩船 (関川村立関川中学校) 11月16日(木)
音楽	—	十日町・中魚 (十日町市立十日町中学校) 10月13日(金)	—	佐渡 (佐渡市立佐和田中学校) 11月24日(金)
保健体育	上越 (上越市立柿崎中学校) 11月14日(火)	—	新潟 (新潟市立白根北中学校) 10月18日(水)	—
学校保健	—	長岡・三島 (長岡市立与板中学校) 10月31日(火)	—	阿賀野・胎内・北蒲 (胎内市立黒川中学校) 11月2日(木)

## ◇ 令和5・6年度指定 (上段：指定研究推進郡市、下段：令和6年度研究会 会場校)

	上越	中越	新潟	下越
国語	上越 (上越市立春日中学校)	魚沼 (魚沼市立小出中学校)	新潟 (新潟市立東新潟中学校)	新発田 (新発田市立加治川中学校)
数学	上越 (上越市立城北中学校)	長岡・三島 (長岡市立刈谷田中学校)	新潟 (新潟市立内野中学校)	五泉・東蒲 (五泉市立五泉北中学校)
道徳	妙高 (妙高市立新井中学校)	見附 (見附市立見附中学校)	新潟 (新潟市立黒埼中学校)	村上・岩船 (村上市立朝日中学校)
美術	柏崎・刈羽 (柏崎市立東中学校)	—	新潟 (新潟市立新津第一中学校)	—
技術・家庭	—	長岡・三島 (長岡市立宮内中学校)	—	佐渡 (佐渡市立新穂中学校)
特別活動	—	小千谷 (小千谷市立南中学校)	—	阿賀野・胎内・北蒲 (阿賀野市立水原中学校)
総合	上越 (上越市立三和中学校)	—	新潟 (新潟市立新潟柳都中学校)	—

# 1 指定研究チームが提案する 「深い学びにいたる授業」



今年度、研究会を実施する教科・領域の全県部長による解説と、各区の研究推進委員会が提案する「深い学びにいたる授業」を紹介します。

社会  
音楽

理科  
保健体育

英語  
学校保健

# 社会

## 社会的な見方・考え方を働かせ、 深い学びにいたる授業づくり

深い学びの実現のために「見方・考え方」を働かせる単元構成を工夫し、考察、説明、議論などの多様な学習活動を構想していきます。ここでは、多様な学習活動を工夫し、「見方・考え方」を働かせて「資質・能力」を育む授業について考えます。



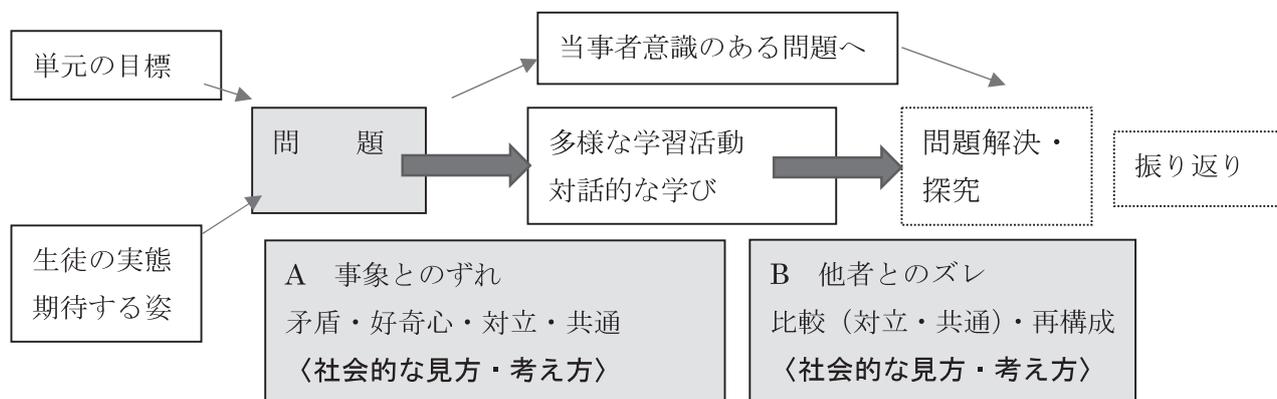
県中教研 社会科部 全県部長  
魚沼市立広神中学校

校長 小森 一秀

### 深い学びにいたる学び合いと、「見方・考え方」を働かせ多様な活動を展開する単元構成の工夫

これまでの、学習を振り返ると一時間の授業で学習問題（課題）の追究や解決を目指すことは難しく、深い学びにならない傾向があります。生徒の実態を踏まえ、学習内容を構造化し、生徒の問題意識の変化を想定しながら単元を構想し学習をデザインしていく必要があります。その過程で「見方・考え方」をどの場面でどのように働かせるかを考え、多

様な活動を組織し、深い学びの実現を目指しています。また、資料の提示や教師の問いを工夫し、これまでの学習内容や経験と事象とのズレに気づき、当事者意識をもって課題の解決に向けて主体的な学びにつなげます。そして、課題解決や探究に向かう場面での学び合いや、振り返りやまとめの場面で単元の学びを明確にする単元を構想していきます。



※Class 第4号 p16 の図を参考に改良

## 資質・能力を一体的に育む学習形態の工夫

「見方・考え方」は思考力・判断力の育成だけでなく、資質・能力全体に関わるもので、「深い学び」の実現に重要なものです。社会的事象について資料や事実を様々な「見方・考え方」を働かせてつなげて解釈することで「知識・技能」の習得につながったり、社会にみられる課題を把握して、その解決に向けて思考をまとめる中で、よりよい社会の実現に向けて主体的に課題解決しようとする態度が育まれたりします。このように思考力・判断力と一体的に資質・能力を育むことができます。また、自己の考えを広げ、多様な考えを理解し、深い学びにつなげるために、子ども同士、教師や教材と対話を行い、課題を探究したり、解決したりする活動では学び合いが不可欠です。

「見方・考え方」を働かせた学び合いにより、次の様な効果が期待できます。

○見方・考え方を使った説明をしたり、聞いたりすることで、多様な視点から社会的事象の特色や意味を多角的に考え、より明確にできる。

○多様な考えを交流させ、知識を相互に関連付けて認識の深まりを明らかにすることでより社会事象の関係性を明確にできる。

学び合いを通して、認識の深まりを顕在化させ、課題に対するまとめや提言へつなげていきます。学び合いの場面では、個人、小集団、ペアなど様々な形態での活動を通して深い学びの実現を目指していきます。

## ○考えを深める多様な学習活動。（各地区のポイントより）

深い学びは、これだと決まったものがあるわけではなく、各地区の研究会では、「見方・考え方」を働かせて、以下の様に多様な学習

活動を工夫して目指す深い学びの姿に迫っていきます。

- 学習課題が成立する過程で、「見方・考え方」を働かせる「問い」や教材提示を工夫し、社会事象を既習事項、経験と関連付けさせる。（問い・教材提示の工夫）
- 多面的・多角的な考察や選択・判断する場を設けて、知識や認識の広がりや深まりを明確にする。  
（議論・対話・検討）
- 思考ツールやICTを活用して、意見や思考を整理して深い学びにつながる学習活動を組織する。

## 社会 重点目標

自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。

- 生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。
- 学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。
- 資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。

# 社会 <上越地区／上越市中教研>

## 「民主政治と日本の政治」

研究主題：社会的事象に関心をもち、  
自分事として学習課題に取り組む生徒の育成  
～自分の考えをもち、対話によって  
学びを深める授業を通して～

開催日：10月17日（火）  
会場校：上越市立清里中学校  
公開：1学級  
授業者：3年 新國 雄介  
指導者：上越市立頸城中学校 校長 小池 修様



研究推進責任者  
上越市立直江津東中学校  
長野 朋水



教科・領域担当者  
上越市立清里中学校  
新國 雄介

### こんな深い学びの姿を目指します

「単元を貫く学習課題（問い）」を設定し、すべての生徒が見通しをもって学ぶことができるようにします。単元全体の構成において、個人で思考した課題を集団で対話することで練り上げ、最後に個人に戻って振り返ります。単元の最後に、「単元を貫く学習課題（問い）」について、それぞれが自分なりの答えを導き出します。生活に根ざした身近な事象を取り上げることで、深い学びの姿を実現します。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 「単元を貫く学習課題（問い）」の設定

すべての生徒が、社会的事象に関心をもち、自分事として学習課題に取り組むことができるように、生活に根ざした、身近で切実性を感じることができる単元構成とします。そのため、最初に「単元を貫く学習課題（問い）」を設定します。

#### ポイント2

#### 単元全体の構成、各時間において

#### 個人で思考 → 集団で対話・練り上げ → 個人に戻って振り返り

自分事として学習課題に取り組み、深い学びの姿を実現するためには、まずは、自分の考えをもつことが重要です。一人一人の考えを集団で対話し、練り上げます。それぞれの考えに変容が見られ、個人に戻って振り返ることで、再考を促します。

#### ポイント3

#### 単元の最後に「単元を貫く学習課題（問い）」の振り返り

単元の最後に「単元を貫く学習課題（問い）」について、それぞれが自分なりの答えを導き出します。単元全体を通して、自分の考えをもち、対話によって学びを深めることを通して、深い学びの姿を実現します。



## 単元(題材)の様子

### ポイント1

単元の開始時に「単元を貫く学習課題(問い)」を確認し、問いに対する自分なりの答えをシートに記入します。

単元を貫く学習課題

上越市清里区の未来につながる政策を提案しよう

### ポイント2

単元全体の構成、各時間において、個人で思考し、集団で対話し、練り上げます。最後には、個人に戻って振り返ります。

先に総合的な学習の時間で学習した上越市や清里区の現状を踏まえて、清里区の魅力や課題を整理します。個人で調べ、考えたことを班で共有します。その際、授業者は政策を考えるにあたっての視点(置かれた立場)を各班に示します。

班を一つの政党と見立てて、それぞれの視点で魅力ある清里区にするための政策を考えます。班(政党)内で話し合いを通じて政策をまとめ、その後、学級全体に発表します。

高齢者、子ども、女性、農業従事者、観光業を含む商業従事者にとって、どういう街が望ましいか、現在の魅力を生かしてさらに磨きをかけるためにはどうしたらよいか、対話を通じて政策を練り上げます。



## 研究会

本時の学習課題

魅力ある清里区にするための政策を選ぼう



本時では、前時で各班(政党)が考えた5つの政策について、以下の4つの観点に基づき、吟味します。

- (1) 必要性      (2) 実現性(効率)
- (3) 公益性(公正)      (4) 発展性

まず、個人で政策を吟味します。5つの政策の中から現実性や有効性があると考えられる政策を選択し、効果が期待できそうな順に並べてダイヤモンドランキング表を作成します。

さらに、それを持ち寄って班内で共有します。その際、根拠を重視して話し合い、班内でのダイヤモンドランキング表を作成します。そして、班としての考えを学級全体の場で発表します。

単元の終末を前に、一人一人の生徒が試行錯誤を重ね、自分事として考えた政策です。研究会では、それぞれの取組の姿勢や発表内容にご注目ください。

### ポイント3

単元の最後に「単元を貫く学習課題(問い)」を振り返ります。

単元の最後に「単元を貫く学習課題(問い)」について、それぞれが自分なりの答えを導き出し、上越市清里区の未来につながる政策をまとめます。まとめた政策は、上越市清里区の関係団体に提案していきます。

# 社会 <中越地区／三条市中教研>

## 「地方自治と住民参加」

研究主題：社会的な見方・考え方を働かせ、  
課題を追究し続ける生徒の育成  
～関わり合い、共に学ぶ授業を通して～

開催日：11月28日（火）

会場校：三条市立第一中学校

公開：1学級

授業者：3年 溝口 祐介

指導者：見附市教育委員会学校教育課長補佐 関 拓也 様  
三条市教育委員会学校教育課統括指導主事 松原 康之 様



研究推進責任者  
三条市立大崎学園

廣瀬 貴久



教科・領域担当者  
三条市立第一中学校

溝口 祐介

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

当事者意識をもって学習問題に向き合うことで、生徒は主体的に社会的事象を見つめ考えていくようになります。思考ツールを活用するなど、視点の明確化と考えの可視化を図り、多面的・多角的な考察を行います。小グループと全体での交流を通して、自己の考えが強化・深化・変容したり、根拠をもって納得解・最適解を導いたりする姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント・

#### ポイント1

#### 深い学びの姿を具体的に想定して単元をデザインする。

生徒がもつ問題意識と深い学びの姿（発言、記述、見方・考え方、取組方等）を具体的に想定して単元計画をつくります。生徒が深い学びにいたる過程が見えてきます。ここで想定した姿は評価規準にもなります。教師は想定した深い学びの姿に導く手立てを工夫するとともに、単元を通して指導の修正を図ります。

#### ポイント2

#### 当事者意識をともなう学習問題を設定する。

自分に引きつけて考えられる学習問題を設定することで、生徒は自分事として考え、追究意欲が持続します。単元の中で問題解決と問題発見を繰り返すことで深い学びにつながっていきます。

#### ポイント3

#### 社会的な見方・考え方を働かせた考察・検討場面を設定する。

思考ツールなどを活用し、視点を明確にもたせて、考えの可視化・共有化を図ります。考察・検討場面で生徒が事象の関連性をとらえたり、価値や意味、意義を考えたり、解釈したりして納得解や最適解をもてるようにします。

## 単元(題材)の様子

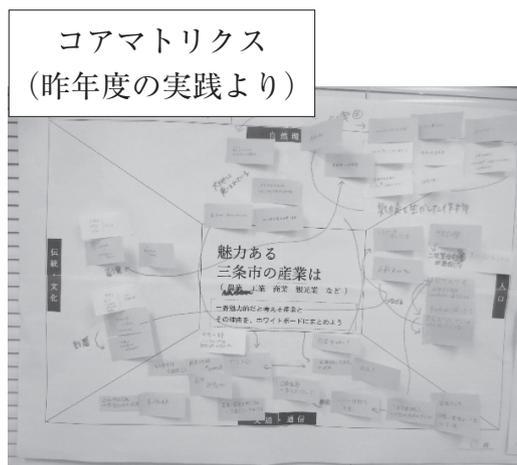
**ポイント1** 本単元では「地域社会の発展に向け、地域が抱える課題に対して、市民としての自覚をもって解消方法を考えることができる」というねらいを達成した生徒の姿を右のように設定しました。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう人間性
達成した子どもの姿(B)	・地域の政治について調べ、様々な政治参加の取り組みとその意義について理解している。	・地域の課題を具体的に検討し、課題解決の方策を考えることができる。	・市民として、地域社会の課題を見つけ、その解決方法について考えを広げようとしている。
達成した子どもの姿(A)	・より良い地域作りに向けた取り組みを理解し、財源の確保や住民参加の重要性について理解している。	・実現可能かを多面的、多角的に考察し、地域課題の解消に向けた現実的な提案を考えることができる。	・市民として、地域社会の課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

**ポイント2** 生徒が自分に引きつけて考えやすい「ふるさと納税」をきっかけに、三条市の職員を招いて三条市政についての話を聞く中で、公共サービスへのニーズや市の税収の現状、ふるさと納税の実態を明らかにしていきます。様々な立場の人の思いに触れながら、より良い三条市のあり方をどのように描くか、具体的にどのような提案や参画ができるのかを考えることができるように学習問題を設定します。



**ポイント2** **ポイント3** 三条市の職員を招いた講座では、三条市の施策と課題、財源にふれてもらい、「ふるさと納税」に対する市の姿勢や、考えについて理解を深めます。財源確保が進む自治体、財源流出が起きている自治体間の課題を踏まえ、学習問題を設定し、より良い三条市の実現に向けた市政の優先度について考えます。ダイヤモンドランキングなどの思考ツール、ジャムボードなどのICTを活用しながら、視覚化・共有化を図り、意見の拡散と整理を行います。



## 研究会

### ポイント2

### ポイント3

これまで学習してきた三条市の魅力、課題、財源をふまえて、生徒が願うこれからの三条市政のあり方について、「効率」と「公正」の視点と優先度や必要性の観点(社会的な見方・考え方)からの見直しを図らせませす。生徒が三条市の魅力を理解しながら、市政の課題解決へ向けて、資料と関連付けながら考えて説明する姿(ポイント1の評価規準の姿)を期待します。



**ポイント1** 単元末では、学級の考えを提言としてまとめて市へ提出します。教師は、単元の生徒の姿(発言、記述、見方・考え方、取組方等)を見取り、想定した深い学びの具体的な姿が見られたかを評価します。

# 社会 <新潟地区／新潟市中教研>

## 「3年地方自治」「2年中部地方」

## 「1年アジア州」

研究主題：「できる授業」「学びあう授業」  
～「見方・考え方」を働かせる深い学びの実現～

開催日：11月9日（木）

会場校：新潟市立宮浦中学校

公開：3学級

授業者：1年 近藤 拓

指導者：新潟薬科大学 教授 木村 哲郎 様

授業者：2年 江口 太

指導者：新潟大学附属新潟中学校 校長 山本 達也 様

授業者：3年 山田 夏希

指導者：新潟市立山潟中学校 校長 笹川 元 様



研究推進責任者  
新潟市立葛塚中学校

木村 伸



教科・領域担当者  
新潟市立宮浦中学校

山田 夏希

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

単元構想や課題設定を工夫し、思考ツールやICT機器を用いて自分の考えをまとめ、同じ考えをもつ生徒と共有する時間を設けることで、自信をもって発表し、意見を交換することができるようになり、課題に対して多面的・多角的に考察することができる姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 単元構想・課題設定の工夫

既習知識とのギャップを生み出すことで、単元をつらぬく課題を設定します。生徒が主体的に課題解決にせまるために、身近な地域の課題を教材化したり、新潟市の産業を取り上げたりすることで学習課題を自分事としてとらえ、課題解決への意欲を高められるように工夫します。

#### ポイント2

#### 議論の可視化

単元を通して思考ツールを用いることで、自分の考えをまとめ、根拠をもって話し合うことができます。

#### ポイント3

#### ICTの活用

ロイノートを活用し、さまざまな資料の読み取りや授業の振り返りを共有することで多面的・多角的な視野にたって考察することができます。

## 単元(題材)の様子

※昨年度の新潟市立小針中学校の実践より

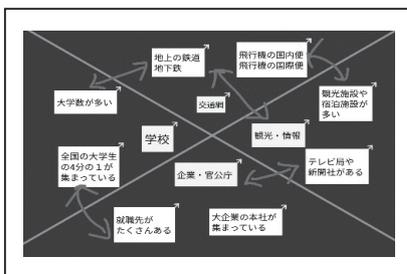
### ポイント1 単元構想の・課題設定の工夫

- ①「関東地方」の学習を「なぜ東京大都市圏に人口が集中するのか。」という課題の解決を中心に据えて、単元を構想します。
- ②ジグソー学習を取り入れ、全員で授業を作り、生徒全員が「できる授業」を目指します。
- ③エキスパート学習で、各自の役割を明確にし、主体的に取り組めるよう工夫します。
- ④それぞれが違う視点で調べることで、対話を通じて課題を解決できるようにします。



### ポイント2 議論の可視化

- ⑤各自がエキスパート学習で得た情報を発表し、班の書記がXチャートにまとめます。完成したXチャートを元に班としての課題の答えを文章にします。



- ⑥Xチャートを見ると他の生徒が調べた視点と自分が調べた視点の関係性が見えてきます。課題について、多面的・多角的に考察でき、より深い学びに至ります。

### ポイント3 ICTの活用



- ⑦インターネットで調べた内容をロイロノートにまとめて、班での説明に使用します。
- ⑧班としての課題の答えをロイロノートの提出箱に提出させます。それをクラスで共有することで、各自、さらに多角的な視野に立って思考することができます。



### 研究会

3つの学年を公開します。各分野で単元を通した課題設定を工夫することで、課題を自分事としてとらえることができるようにします。思考ツールやICTを活用し、多面的・多角的に考察し、他者との関わりの中で自分の考えを深め、それを自分の言葉で表現できる生徒を目指します。

# 社会 <下越地区／新発田市中教研>

## 「1年：アフリカ州」

研究主題：社会との関わりを意識して  
課題を追究・解決する生徒の育成  
～深める問いで深い学びを～

開催日：11月7日（火）

会場校：新発田市立本丸中学校

公開：1学級

授業者：1年 横井 佑来

指導者：小千谷市立小千谷中学校 校長 若林 靖人 様



研究推進責任者  
新発田市立第一中学校  
海老名 崇



教科・領域担当者  
新発田市立本丸中学校  
横井 佑来

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

「社会との関わりを意識する」ことを中核に授業を構想し、そこから生ずる課題を追究・解決する生徒の育成を目指します。さらに、課題を追究・解決する過程で設定する対話が、意見（考え）の発表に終止することなく、目指す深い学びの姿へと向かうよう、対話に「深める問い」を設定します。対話の際に「深める問い」を投げ掛けることで社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念を獲得する深い学びの姿が見られることを目指します。

### ・深い学びにいたるポイント



#### ポイント1

**社会との関わりを意識させるために教材化、資料提示を工夫する。**

社会的事象の特色や相互関連、意味を考え、社会との関わりを意識しながら課題を追究・解決するにはどのような視点が単元のどの段階で必要になるかを考える必要があります。そのために教材化や資料提示の内容、加工、提示の仕方を工夫します。



#### ポイント2

**社会との関わりを意識させるために問いの構成を工夫する。**

「深める問い」を表出するためには学習課題と毎時の課題における問いがどのようにつながり社会への関わり方の選択・判断につながっているかなど、単元を通した問いの構成を工夫して、生徒が社会的事象の見方・考え方を働かせるように授業設計します。



#### ポイント3

**「深める問い」を設定する。**

「深める問い」は対話を「深い学び」に誘うために、「対話の途中で生徒に共通して立ち上がる本質的な問い」を意味します。「深める問い」には「そもそも●●とは何か？」〈定義（本質）を見いだす問い〉「それって、いつも○○なのか？」〈汎用性を見いだす問い〉

「▲▲と△△はどんな関係にあるのか？」〈関係を見いだす問い〉などが考えられます。具体的・特殊的・個別的な概念を獲得した生徒が、このような「深める問い」をもち、社会科の見方・考え方を働かせて抽象的・一般的・普遍的な概念を獲得していく姿が深い学びの姿であると捉えます。

## 単元(題材)の様子

①② 社会との関わりを意識させ、自分事として課題を追求・解決させるために身近な地域素材を教材化したり、資料の内容を精選、加工し、ICTを活用して提示します。例えばアフリカ州のカカオ豆の生産農家の様子と日本で製品化されたチョコレートの関係を教材化することでモノカルチャー経済の課題を自分事として考えさせたり、フェアトレードのあり方を検討させます。また資料を提示する際は何を読み取らせるのかを明確にするため、ICTで必要な部分を拡大したり、加工すること

### ポイント1

③ 社会との関わりを意識させるためには単元の目標を見据えながら単元を貫く課題を設定することに加え、生徒の振り返りを活用しながら、毎時間の問い(学習課題や学習問題)の構成を工夫します。そのために毎時間の振り返りカードを用意し、生徒の疑問や問題意識を拾い上げ、単元の目標と結び付けるような問いを生徒と共に設定していきます。そうすることで生徒はよりその問いを自分事として捉え、課題を追求・解決し

### ポイント2

④⑤ 問いについて班で話し合った結果を全体で共有した後、更に社会科の見方・考え方を働かせる「深める問い」を設定します。授業者が生徒の思考を読み取り、「深める問い」を、適切な場面で投げかけることによって、対話はより「深い学び」へと向かいます。また深める問いには定義(本質)を見いだす問い、汎用性を見いだす問い、関係性を見いだす問いなどがあり、抽象的・一般的・普遍的な概念を獲得していく姿が深い学びの姿であると捉えられます。

### ポイント3

## 研究会

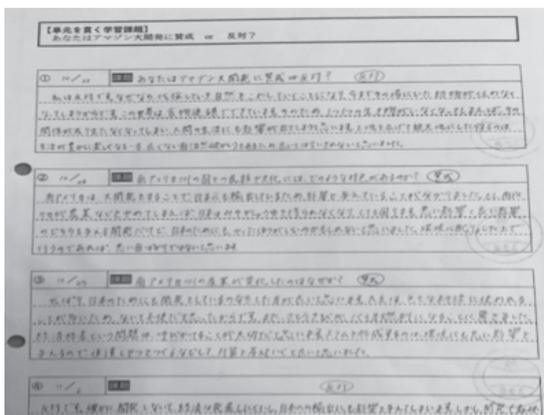
1年生の地理的分野の世界の諸地域「アフリカ州」で授業を予定しています。豊かな資源と先進国からの開発援助を受けながらも、アフリカで暮らす多くの人々の暮らしが豊かにならないのはなぜなのか。またどうしたら豊かになるのかなどの課題を追求・解決する授業を予定しています。



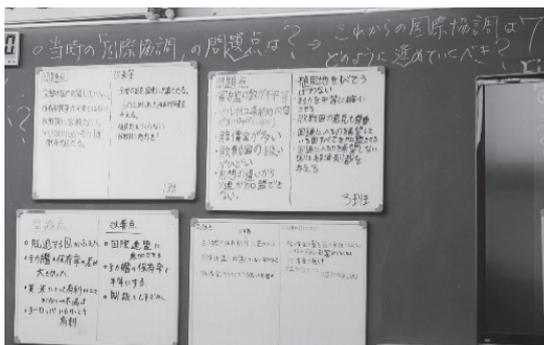
①身近な地域素材を教材化する。



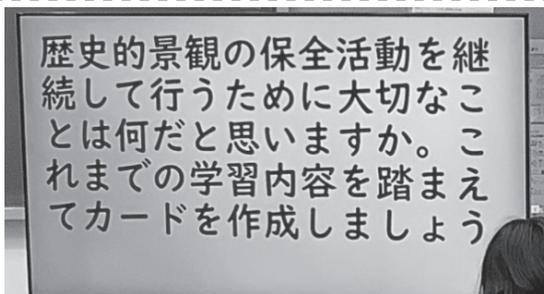
②ICTで資料を精選して提示する。



③生徒の振り返りから問いを構成する。



④話し合いの結果を全体で共有する。



⑤深める問いを設定する。

# 理科

## 「ああ、そういうことか」、 「私、間違っ覚えてたなあ」と、 わかり直しができる授業

あなたの授業では、生徒がすすんで図や表を用いていますか？

あなたの授業を記録したら、発話の5割以上は生徒が発話していますか？

あなたは授業で、生徒の発言の仕方へのダメ出しをしていますか？

もちろん、全ての授業でとは言いません。でも、単元の中で何度かは「はい」と答えられることが大切だと考えます。



県中教研 理科部 全県部長  
五泉市立五泉中学校

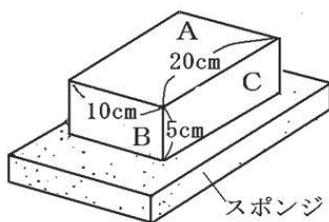
校長 大川 正史

### 生徒の言う理由が、理由になり得ているか見とる

スポンジの上にレンガが乗っている図を用いて、「スポンジが最もへこむのはどの面を下にしたときか」と問うたときです。

生徒：Bです。

教師：なるほど、  
どうしてB  
の面だと考  
えたの？



生徒：面積が一番小さいから。

教師：そうだね。面積が小さいほど力が集中して・・・(以下説明が続く)

Bの面積が一番小さいのは誰の目にもわかる事実であるので、生徒は根拠に基づいて答えているように見えます。しかし、これではスポンジのへこみ具合と接する面の面積とはどのような関係があると考えているのか、また、それはなぜそう考えるのかという理由付けを生徒は一つも述べておらず、理由としては不十分です。この理由付けのことを「論

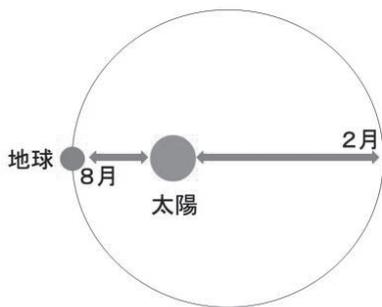
拠」と呼び、教師も生徒も根拠と論拠があつてこそ相手に伝わる理由となることを共通理解することが大切です。そして、この例のように、根拠を答えるのが生徒で論拠を語るのが教師という授業になっていないか、自分の授業を振り返ることが必要です。

まずは、生徒の言う理由が根拠だけだったら、教師がその場でだめ出しをする勇気を持ちましょう。そもそもこの例では、B面の面積が一番小さいことなど前提条件でしかありません。それだけを理由としていたら、「スポンジが最もへこむのはA面を下にしたときです、なぜなら一番面積が大きいからです」という誤答を論破できなくなります。とりあえず正解だからとその場をおさめず、教師は問い返しましょう。

生徒が、「え、そこまで言わなくちゃいけないの？そんなの聞いてないよ」と感じなくなるように、日常的な指導が必要です。

## 相手にわかってもらうために、半具体物を用いるよう促す

「地球は太陽の周りを1年間で公転しますが、夏は暑くて冬は寒いですよ、春と秋はその中間です。これらの季節があるのは、どのような仕組みがあるからだと思いますか」と問われたO君は、「太陽に近い水星は表面温度が高く、太陽から遠い火星は表面温度が低いので、地球も太陽から近いときと遠いときがあると思います。」と答えました。そこで、先生はO君に、図を描くようよう促しました。



これにより、太陽と地球が近いときが夏で遠いときが冬ということがいちいち言わなくても伝わります。この図を見た他の生徒は、それじゃ太陽が中心じゃなくておかしいとざわつきます。図が無ければこのざわつきは無かったかもしれません。O君の述べた理由は論拠が十分ではありませんが、図がそれを

補ったと言えます。図や表は半具体物として考えの表現を補助するだけでなく問題を焦点化させたり新たな視点を見出したりするにも役立ちます。さらに先生は、太陽から近かったり遠かったりする天体は他にもあるのかとO君に聞いて論拠を補強にいきます。O君がきっと彗星の動きや楕円軌道という言葉を知っているのだろうと予想するからです。このように、たとえ間違った予想であろうとも論拠を整えて、生徒の考えの確からしさを他の生徒に伝えることは極めて重要です。そうでなければ、考えのずれが生じませんし、何より生徒は安心して意見を述べられません。

この後、「日本とオーストラリアの季節が逆であることを英語の時間に習ったじゃないか」と根拠を示し、O君の図だと日本もオーストラリアも同じ時期に夏になっているから矛盾が生じると見事な論拠を語る生徒が大抵います。そしたら、その生徒に、O君は夏と冬の気温の差は何によって起こると考えているの?と問い、太陽との距離以外に温度を変える要因とは何なのかと課題を明確にします。教師は、生徒に何をどこまで語ってほしいのか、そのために何をしていくのかを考えられなければなりません。

## 「論拠」も半具体物も生徒が表現したものを大切にする

生徒の論拠がきちんと整わなければ、その人が言いたいことはこうではないかと他の生徒が代わって答えることはまだよいのですが、教師が生徒の言っていないことを加えて論拠を整えるのはお薦めしません。論拠も半具

体物も、どうすれば相手に考えを伝えられるかという意識が根付くまで、その説明ではよくわからないとやり直しさせる習慣が授業に欲しいのです。

## 理科 重点目標

目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。

- 観察や実験の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味したりする学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。
- 他者との関わりや問題解決的な活動において、生徒が科学的な見方・考え方を働かせるための手立てを行う。
- 地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。

# 理科 <上越地区／柏崎市刈羽郡中教研>

## 「3年：地球と宇宙（天体の動きと地球の自転・公転）」

研究主題：活用を意図した単元構成により、  
自ら学びをつなげる生徒の育成

開催日：11月28日（火）  
会場校：柏崎市立第一中学校  
公開：1学級  
授業者：3年 近藤 悠司  
指導者：中越教育事務所学校支援第2課 指導主事  
長谷川 成生 様



研究推進責任者 兼 教科・領域担当者  
柏崎市立第一中学校 近藤 悠司

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

生徒が単元を見通した課題をもち、解決のために必要な知識や技能を活用して、自らが学びをつなぐ姿を目指します。毎時間、学習を振り返る場面を設定することで、生徒自身が学びのつながりを自覚し、理解の不足している部分を補いながら、生きて働く知識や技能を習得します。

本単元では、「太陽の黄道について、どの子も一人残らず理解し説明できること」を目指し、生徒との対話を基に単元を見通した課題を設定します。地球の自転・公転による天体の運動の知識や技能を活用しながら、見通しをもって課題を解決することで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めます。

### ・深い学びにいたるポイント・

#### ポイント1

#### 「逆向き設計」による単元構成の工夫

授業者が単元を通して育成を目指す資質・能力を具体的に思い描きます。この資質・能力の育成に向けて、どのような学習をどこに配置し関連付けるかを考え、一連の授業を「構想シート」にまとめます。このシートを指導者と生徒が共有することで、見通しをもった学習が展開され、生徒自ら学びをつなげようとする意識を高めます。

#### ポイント2

#### 「振り返りシート」の活用

「振り返りシート」を活用し、毎時間、文章や図表による振り返りを記述します。このことで、学びのメタ認知が働き、生徒自身が、何ができるようになったのかを整理し、自身の学びを自覚できるようになります。単に語句として覚えるだけでなく、科学的な見方・考え方を働かせながら、自然の事象を科学的に捉えるようになります。

#### ポイント3

#### 「ICT機器」の活用

##### ① 結果を共有するための手段

タブレット型PCを活用することで、自分の考えを記録でき、班員と適宜共有できます。過去の記述内容や実験結果を何度でも確認でき、自ら学びをつなぐ手段として有効に活用できます。

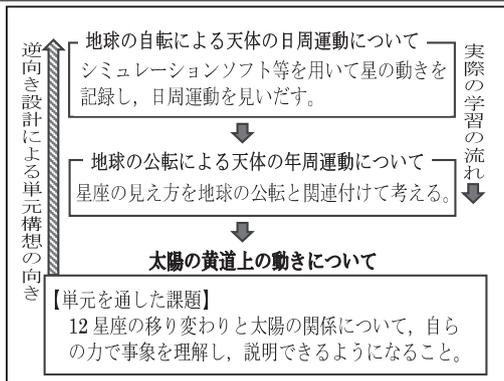
##### ② 概念形成を助けるための手段

ICT機器の活用によって、観察が難しい事象をシミュレーションソフトで学んだり、概念的に理解しづらい内容をモデルで表現したり、生徒一人一人の目的に応じた学びを成立させます。

## 単元(題材)の様子

①「太陽の黄道について、どの子も一人残らず理解し説明できること」を目指し、生徒との対話から「12星座の移り変わり」と太陽の関係について、自らの力で事象を理解し、説明できるようになること」を、単元を通した課題として設定します。指導者は単元の授業構成を示した『構想シート』を提示し、学びのつながりを生徒と共有できるようにします。

### ポイント1



構想シートの概要

①～③ 地球の自転と天体の日周運動について学習します。天体に関わる科学的な見方・考え方を働かせるために『ICT機器』を活用し、天体の動きを方位や時刻と関連付けたり、シミュレーションソフトなどを活用したりして概念形成を図ります。

### ポイント3-②

毎時間、振り返りの時間を設けることで、単元を通した課題の解決に必要な知識や技能を蓄積します。さらに、教科書やインターネット等で分からない部分を補いながら



学習を振り返る様子



天体の動きを確認する様子

④・⑤ 単元を通した課題の解決のために、天体の1年の動きについて、『ICT機器』と『振り返りシート』を活用しながら学習を進めます。また、プラネタリウムを活用し、教室では再現が困難な天球上の天体の動きを確認しながら、時間的・空間的なものの見方を養います。

### ポイント1・2・3



プラネタリウムを活用した授業の様子

## 研究会

本時では、12星座の移り変わり」と太陽の関係について、校舎2階の窓ガラスに貼った星座シールと中庭に置いた太陽に見立てた風船を用いてモデル実験を行い、考察します。タブレット型PCを用いて、地球からの観察者の視点の画像(動画)と太陽と地球を俯瞰した視点の画像(動画)を撮影し、結果をまとめます。

### ポイント3-①

記録した画像(動画)を基に、単元で獲得してきた知識や技能を活用し、黄道上の太陽の動きを自らの力で科学的に探究する授業を公開します。

### ポイント1・2



観測者の視点  
(太陽を正面にして中庭を歩く生徒)



太陽と地球を俯瞰した視点  
(2階から観察した生徒)



2つの動画を同時に確認する様子

# 理科 <中越地区／長岡市三島郡中教研>

## 「2年：電流と電圧」

研究主題：学ぶ喜びを共に実感できる授業の在り方  
～個や集団の学びを生かした課題解決を通して～

開催日：11月21日（火）

会場校：長岡市立北中学校

公開：1学級

授業者：2年 高橋 賢太郎

指導者：中越教育事務所 学校支援第2課 指導主事  
羽鳥 益実様



研究推進責任者  
長岡市立東中学校

金井 太一



教科・領域担当者  
長岡市立北中学校

高橋 賢太郎

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

まず、仮説を設定する場面では、事象を日常生活や既習事項と関連付けて、より深く追究しようとする姿を目指します。次に、考察する場面では、見方・考え方を働かせながら、思考したり説明したりする姿を目指します。そして、まとめの場面では、結果を考察することにより、既存の知識や概念を再構築するなどして、深い学びにいたる生徒の姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 身近な事象と結び付けた課題設定

日常生活と関連をもたせることで、生徒の関心意欲を高めるとともに、これからの学習内容について目的意識をもって課題に取り組めるようにします。また、身近な事象を明らかにしていく活動を通して、学んだことをそれぞれ関連付けて考える習慣を促進し、学ぶ喜びにつなげていきます。

#### ポイント2

#### ニーズに応じた学習形態、個と全体の使い分け

生徒の立てた仮説や検証計画によって自由に観察・実験班を作らせます。一人で集中して課題に取り組みたい、グループで話し合いながら考えをまとめていきたいなど、一人一人のニーズに応じて課題に取り組ませることで、目的意識をしっかりとらせ、達成感・成就感につなげていきます。その後、個人またはグループそれぞれの学びの交流を通して、他と比較させることで、生徒は見方・考え方を働かせながら、思考したり、説明したりして理解を深めていきます。

#### ポイント3

#### ICTを活用した情報の蓄積と整理、共有と活用

毎時間の振り返りを「ICTを使った振り返りシート」に蓄積させ、学んだことを関連付ける習慣を促進します。デジタルでまとめることで、既習事項を整理して学び直したり、一つ一つを関連付けたり、タイトルを付けるなど工夫して取り組むことが容易になります。

また、交流活動では、「オクリンク※」を活用し、個人またはグループでまとめた内容の共有化を図るとともに、自分に必要な情報を適宜取り出し、必要に応じて質問や意見を互いに発表するなど、情報を活用して考えを深める活動を効果的に行います。

※ 課題の制作や、意見の共有ができる授業支援ソフトのこと。

## 「電流と電圧」の様子

① 単元の導入では、電気が「光」や「熱」、「電磁石」として使われていることを身近なものを例に確認します。その中で、可変抵抗を利用した電気器具をいくつか紹介し、その仕組みについて予想させます。また、小学校での既習事項を想起させながら、これからの学習につなげていきます。

ポイント1



図1 可変抵抗を利用した電気器具

②～⑦ 電流や電圧の直列・並列回路の関係性について仮説を立て、立てた仮説をもとに、個人またはグループに分かれ、検証方法を考え、実験を行います。また、結果については、ワークシートにまとめたり、タブレットで写真や動画を撮ったりして記録します。記録したものは、データとして保存し、「オクリンク」を活用してクラスで共有します。まとめでは、電流や電圧の直列・並列回路の関係性について知識を習得します。

ポイント2・3



図2 個別またはグループによる実験の様子

⑧⑨ 電流と電圧の関係性についても、同様に仮説を立て、個人またはグループに分かれ、仮説検証を行います。また、「オクリンク」を活用し、他と比較することで理解を深めます。まとめの部分では、電流と電圧の規則性についての知識を習得します。

ポイント2・3



図3 ICTを活用した情報共有

⑩⑪ 抵抗の役割(電流を調整する)について、導入で使った可変抵抗をもとに考えます。抵抗のつなぎ方の違いによる回路全体の抵抗の大きさについて、実験を通して確認し、オームの法則を使って関係性を理解します。

ポイント1

⑫ セメント抵抗の仕組みはどうなっているのか、実際にセメント抵抗を分解して中身を観察します。抵抗値が異なるセメント抵抗の中身を比較することで、抵抗の大きさがニクロム線の長さや太さと関係していることを見出し、出します。

ポイント1

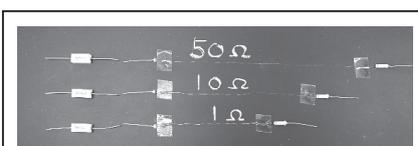


図4 セメント抵抗の中身

### 研究会

#### 「セメント抵抗の中身と回路全体の抵抗の関係性を関連付けて説明しよう」

⑬ 本時では、分解したセメント抵抗の抵抗値を実験で調べ、ニクロム線の長さや太さが抵抗値とどう関係しているかを確認します。そして、ニクロム線の長さや太さによる抵抗値の違いと、直列回路・並列回路における回路全体の抵抗の規則性が、どのように結びついているかを考察します。その際、生徒のニーズに応じて自由に実験班を作ります。図やモデルを使ったり、インターネットで調べたり、追実験をするなど、見方・考え方を働かせて考察します。また、「オクリンク」を活用し、他と比較することで理解を深めます。そして、直列回路・並列回路における回路全体の抵抗値について、単なる暗記ではなく、ニクロム線の太さや長さの関係と結びつけて理解することにより、抵抗概念を再構築して、より納得した深い学びにいたる授業を展開します。

ポイント1・2・3

# 理科 <新潟地区／新潟市中教研>

## 「2年：電流・電圧と抵抗」

研究主題：学び合いを通して、科学的な思考力・判断力・表現力を高める理科指導の工夫

開催日：11月9日（木）

会場校：新潟市立小針中学校

公開：1学級

授業者：2年 南 信厚

指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 坂井 友紀 様



研究推進責任者  
新潟市立藤見中学校  
間 英法



教科・領域担当者  
新潟市立小針中学校  
南 信厚

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

深い学びの成立には、「認識のずれ」がある学習課題を設定することが肝要だと考えています。

最初に「えっ？」と思わせる課題設定を設定します。生徒は仮説を立て、実験を行い、結果を考察する中で、最初に感じたずれを修正していきます。その検証の中で学習意欲が高まり、他の生徒との対話を通して自らの学びを深めていく姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント・

#### ポイント1

#### 「認識のずれ」がある学習課題の設定

予想 「値は大きくなる」  
「なぜなら…だから」  
実験結果 「あれ？値は小さくなった」  
考察 「小さくなった理由は…」  
といった、当初の素朴概念と実験結果のずれを考察で修正していく話し合い活動を設定します。

#### ポイント2

#### 電流の流れをイメージできる水流モデルや粒子モデル等の使用

電流の流れる様子は実際に目で見る事ができないため、生徒は電流や電圧についての概念づくりに困難を感じます。生徒が少しでもイメージしやすくなるようなワークシートや、モデルなどを用意します。

#### ポイント3

#### デジタル電流計やテスターなどの実験器具の活用

デジタル電流計を使うと、アナログ電流計より電流の大きさの読み取りが楽です。また、テスターを使うことで抵抗の値を計算ではなく、実測で確認できます。これらの器具を使うことで、配線などの実験技能の負担軽減や概念形成の時間確保をすることができます。



テスター

## 単元(題材)の様子

- ① 電熱線を使い、電圧を1V、2V、3Vと変化させた時のデジタル電流計の値を調べる。このオームの法則の実験を通して、電流の流れにくさである抵抗の概念を理解する。
- ② 抵抗をテスターで計れることを知り、身の回りの電気製品の抵抗や、電熱線や電流計、電圧計などをテスターで計り、物体には抵抗があることを理解する。
- ③ セメント抵抗を1つ使い、デジタル電流計の値から、セメント抵抗1つの抵抗値を求める。
- ④ セメント抵抗を直列と並列に2つつなぎ、デジタル電流計の値から、抵抗を1つつないだときの大きさと比較し、つながり方によって回路全体の電流の流れにくさが変わることを見出すことができる。(本時)

ポイント3

ポイント3

ポイント1

ポイント2

ポイント3

- ⑤ 抵抗を直列、並列につなぎ、テスターで抵抗の大きさを調べたり、練習問題の計算練習を行い、抵抗の概念や原理原則を理解する。

ポイント3



デジタル電流計

## 研究会

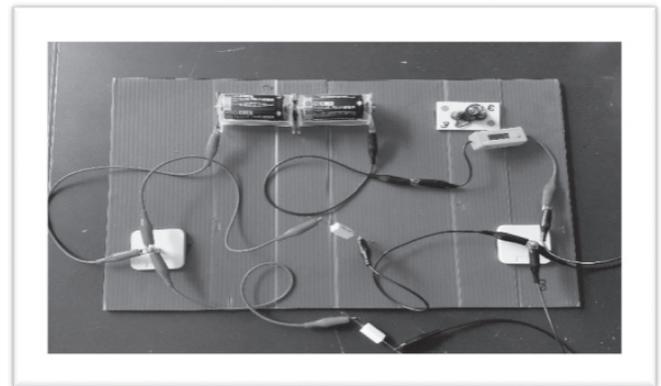
ア セメント抵抗1つの場合の電流の大きさを基に、セメント抵抗を2つ直列、並列につないだときは回路全体の電流の大きさが大きくなるか、変わらないか、小さくなるかの大きさを予測させます。

- イ 予想される生徒の考えは次の通りです。
- ・どんなつながり方をしても、電流は小さくなる。
  - ・つながり方で電流の大きさは変わるかもしれない。

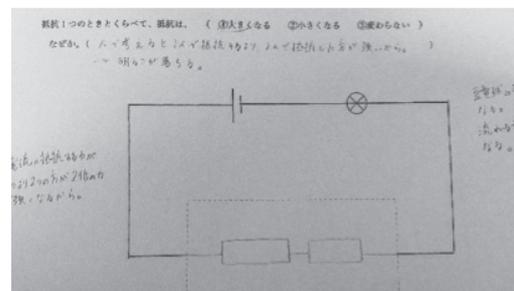
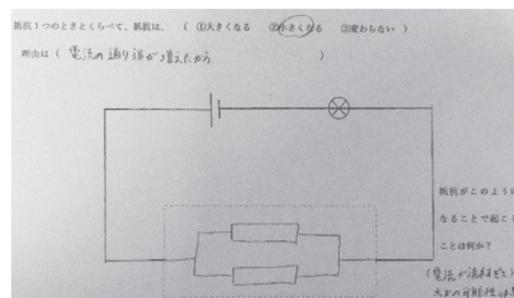
ウ 実際に実験すると、セメント抵抗を直列につなぐと電流の値は小さくなり、並列につなぐと電流の値は大きくなります。

なぜ、電流の大きさが回路によって異なるのか考えさせます。

このとき、生徒の希望に応じて、デジタル電流計、デジタルテスターなどを使用した追実験を可能とします。最終的に、ワークシートを活用して、言葉や図で説明したり、水流モデルなどのモデルを使って説明する活動を行わせます。



実験装置



ワークシートでの説明

# 理科 <下越地区／五泉市東蒲原郡中教研>

## 「1年：光の性質」

研究主題：深い学びにいたる授業

開催日：11月10日（金）

会場校：阿賀町立阿賀津川中学校

公開：1学級

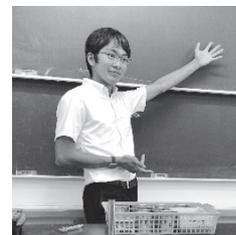
授業者：1年1組 石井 大輔

指導者：下越教育事務所 指導主事 渡邊 幸太 様



研究推進責任者  
五泉市立五泉中学校

石川 公康



教科・領域担当者  
阿賀町立阿賀津川中学校

石井 大輔

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

「理科の見方・考え方ははたらかせて、課題を見出し解決に向かう姿」を目指します。「ものが見える」のは、ものから光が目が届いたからです。光の反射や屈折、凸レンズを使ったときの物体の見え方を提示します。お椀の底に置いて見えなかったコインが水を注ぐと見えるようになる、という「感覚とのずれ」によって、生徒は課題を見出します。単元を通して、なぜそのように見えたのか、作図などの方法で「光の進み方」と関係づけて説明することで、他者と協働し、見えた仕組みに迫ることができます。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

課題を見いだすために「ずれ」を生み出す

ずれを感じさせるために、

- ①：他者の考えとのずれ
- ②：予想とのずれ
- ③：感覚とのずれ
- ④：既存の知識とのずれ

を使い、生徒に問いをもたせる。

#### ポイント2

単元(章)を逆向きにデザインする

目指す生徒の姿から逆算して単元構想を行い、発展的な課題を終末に設定する。

- ①課題解決に必要なスキルや知識を、単元を通して計画的・意図的に伝える。
- ②単元を通して、連続的な問いを提示する。（一つの問いの解決が次の課題となる）
- ③単元全体を貫く共通問題（共通テーマ）となる現象を初めに提示する。
- ④生活にもどす課題（パフォーマンス課題）を設定する。

#### ポイント3

「深める問い」を発問する

本質に迫る（深めさせる）発問をすることで、さらなる思考を促す。

「深める問い」とは、【関係を問う】、【本質を問う】、【汎用性を問う】、などのように教科の見方・考え方を働かせた姿になる問いのこと。（下越教育事務所 Teachers2022より引用）

## 単元(題材)の様子

### 【単元全体を貫く問い】

なぜ、そのように見えたのか。

### ポイント2

- ①ものが見えるのはなぜか。
- ②あらゆる方向から物体が見えるのはなぜか。
- ③鏡の真ん中に映るのは誰か。
- ④鏡の像はどこに映っているのか。
- ⑤物体がずれて見えるのはなぜか。
- ⑥見えないコインが見えるようになるのはなぜか。【研究会の授業】
- ⑦凸レンズを使うと、大きく見えたり小さく逆さまに見えたりするのはなぜか。

#### 乱反射 (あらゆる方向に反射する)

そのままのアルミホイルとくしゃくしゃにして広げたアルミホイルに光源装置の光を当て見え方の違いを観察する実験を行う。

#### 反射の法則

1. 鏡の前に立つ3人、端の人から見て鏡の真ん中に映るのは誰か、実験を行う。
2. 上記の現象を説明するため、教科書実験を行い、反射の法則を見つける。
3. 鏡の実験を作図で説明する。

#### 像ができる位置

1. ハーフミラーを境にして、物体をハーフミラー越しに重ねる実験で像ができる位置を確認する。
2. 鏡に映る像を作図で説明する。

#### 屈折 (ずれて見えた現象)

1. ペンの手前に透明なガラスを置き斜めから見るとずれて見えることを確認する。
2. 上記の現象を説明するため、教科書実験を行い、屈折について学習する。
3. ペンがずれた理由を作図で説明する。

#### 屈折 (見えなかった物体が見える)

1. お椀に入れたコインに水を注いでいくと見えるようになることを確認する。
2. 上記の現象を作図で説明する。
3. 「コインが違う位置に見えたのはなぜか」と補助発問をしてさらに深める。

#### 凸レンズ

1. 凸レンズを通して、遠くや近くを見て見え方の違いを確認する。
2. 凸レンズを使って蛍光灯や外景色を壁などに映す。
3. 光源装置から光が凸レンズを通ると屈折し一点に集まることを確認する。
4. 教科書の光学台を使った実験で凸レンズによってできる像の仕組みを実験し確かめる。
5. 実像、虚像を作図し、1・2の現象を理解する。
6. カメラの構造などに発展課題に挑戦する。

## 研究会

「見えなかったコインが水を入れると見えるようになるのはなぜか。」

### ポイント1

1. 2つ並べたお椀の片方に水を注ぎ込むようすをタブレットのカメラ機能を使い、視点を共有し水を入れたお椀だけがコインが見える様子を共有する。
2. お椀がないときの光の作図にトレーシングペーパー(水を入れた状態のお椀の図)を重ねて作図し、見えた理由を説明させる。

### ポイント3

【本質を問う】  
見えなかった物体が見えるようになったのは、どのように光が目が届いたからか。  
【関係を問う】  
「水が注がれたときに目が届く光」と「水が入っていないときに目が届く光」は同じ光なのか。

### ポイント2

「目に入る光の違いによって、物体の見え方が変わることを図示して説明できる」ために必要な知識や技能を逆算して想定する。

ア：物体が見えるということは、目に光が届いているため。

イ：光はまっすぐに進んでいる。

ウ：でこぼこした表面で反射した光は、いろいろな方向に進む。

オ：物体がそこにはないのにあるように見えるのは、光の延長線上に像ができるからということを理解し、光が目が届く道すじと像を作図する必要がある。

エ：水を注ぐとお椀の底のコインが見えるのは、屈折光の延長線上に像がある。

# 英語

## 外国語によるコミュニケーションにおける 見方・考え方を働かせた学びの過程を！

外国語科における「見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると学習指導要領に示されています。学習指導要領の趣旨を実現するために、生徒の「見方・考え方」を確かで豊かなものにする学びの過程を構築することが大切です。



県中教研 英語部 全県部長  
上越市立八千浦中学校

校長 中野 博史

### 外国語教育における学習過程

以下のような学習過程の中で、学んだことの意味付けを行ったり、既習の知識や経験と新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力・判断力・表現力」を高めていきます。

① 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況などを理解する。

目的：コミュニケーションを行うことで達成しようとする目的は？

場面：話し手や聞き手を含む発話の場面は？

状況：コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境は？

② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。

③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。

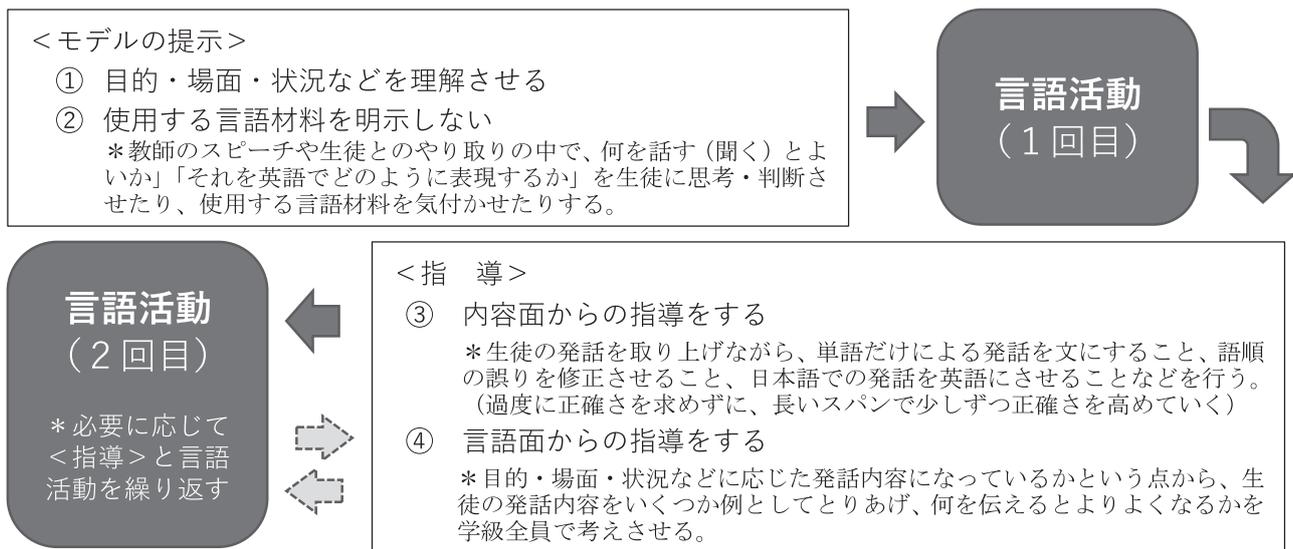
④ 言語面（英語使用の正確さ）・内容面（表現内容の適切さ）で自らの学習のまとめと振り返りを行う。

### 深い学びにいたる言語活動の工夫

言語活動は、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が基本です。

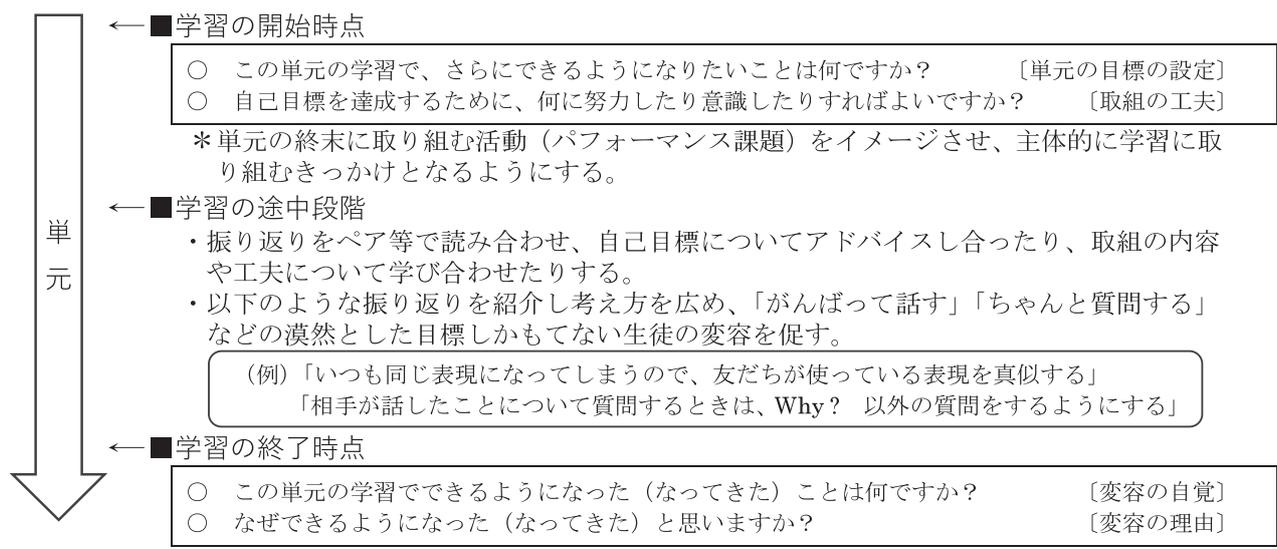
言語活動を実施する際は、小学校で学んだ語彙・表現などを意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう、内容や活動方法を工夫し、生徒の言語運用能力を高めていくように指導することが大切です。また、生徒がコミュニケーションを行う目的や言語の使用場面を意識して活動することができるよう、どのような言語活動を行うのかを明確に示し、その活動の中でいかに文法が使用されているかに着目させて、その文法の必要性や有用性を実感させた上で知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなどの指導をすることが大切です。

以下に、単位時間における言語活動の基本的な流れを紹介します。



## 生徒の自己調整を促す指導の工夫

生徒自らが学習の見通しを立て主体的に学習に取り組むことで、言語活動の質の高まりによる自分の考えの変容について、自らの学習のまとめや振り返りを行うことが促されます。以下に、効果的な問いかけの具体例を紹介します。



<引用・参考文献>  
『中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 外国語編』文部科学省 平成29年7月  
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』文部科学省 国立教育施策研究所 令和元年6月

## 英語 重点目標

学習指導要領(外国語)の趣旨を正しく理解し、その目標を実現する取組を着実に推進する中で、適切な言語活動を通して、英語で目指す資質・能力を確実に育成する。

- CAN-DOリストから単元の学習到達目標を設定・共有し、どの生徒も無理なく目標に迫ることができるように指導内容をバックワードで配列して行う指導を徹底する。
- 学習指導要領に示されている4技能5領域における言語活動例を視点に、折に触れて自校の指導の現状をチェックし、領域に偏りがなくバランスよく指導する。
- 即興的な表現力を育む言語活動を継続的に授業に位置づけ、進歩を実感させながら生徒の主体性や学習意欲を維持・増進させ、自立して学び続ける生徒を育成する。

# 英語 <上越地区／上越市中教研>

## 「3年：The Great Pacific Garbage Patch」

研究主題：自分の考えや思いを英語で伝え合える生徒の育成

開催日：11月2日（木）

会場校：上越市立八千浦中学校

公開：1学級

授業者：田中 健昭

指導者：上越教育事務所 指導主事 桑原 正博 様



研究推進責任者  
上越市立大潟町中学校  
鈴木 有紀子



教科・領域担当者  
上越市立八千浦中学校  
田中 健昭

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

「自分の考えや思いを英語で伝え合える生徒」の育成を目指します。生徒が生き生きと英語でコミュニケーションを図ろうとしている姿が具現化できるように、普段の授業の中でポイントを意識して授業づくりを行います。他者との関わりの中で、聞いたり読んだりして理解したことを、生徒自身が目的・場面・状況を意識しながら話したり書いたりして表現する体験的な言語活動を繰り返していきます。

### ・深い学びにいたるポイント・

#### ポイント1

#### 単元の明確な目的（ゴール）の設定と共有

教師と生徒が、単元のゴール（目指す姿）を共有し、生徒に授業の学びの見通しをもたせます。

目標、タスク、評価、目的達成までの流れ等を生徒に事前に示し、どんなことを頑張りたいか生徒自身の目標を立てさせることで主体的な学習を促します。

生徒は、毎時の授業の振り返りで、自己の学習状況を確認したり、自己調整を図ったりしながら、課題解決を目指します。

#### ポイント2

#### 協働的に学ぶ場の設定

Small Talk等、生徒が即興でやり取りしたり、表現力を高めたりすることを大切に学習活動を設定します。教師は、生徒の発話を整理・修正したり、個別に支援したりするなどの更なる手立てを工夫します。

#### ポイント3

#### ICT機器を活用した学びの蓄積

RetellingやPresentationなど、普段の学習活動の中でICT機器を積極的に活用することで、多くの英語に触れたり、自分自身のことについて伝える表現を蓄積し自己の変容を確認したりすることができます。

## 単元(題材)の様子

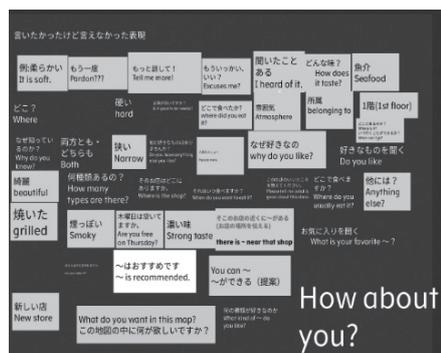
① 単元の最初に「単元のゴール」を確認します。また、各授業の最初に「△△のために、○○について詳しく説明できるようになろう」など、言語活動の目的・場面・状況を確認させ、学習を価値付けします。それにより、振り返りの場面で、生徒はループリックに照らし合わせ、自分の現在地を確認しながら、ゴールに向かって進んでいきます。

ポイント1

②～⑦ 帯活動のミニディベートでは、生徒にテーマを示し、AかBのどちらかの立場を選ばせ、1分程度ペアで互いの考えを伝え合う活動を設定します。生徒は活動中、互いに意見を1つ言うたびに、タブレット端末でチェックを付けます。チェックした内容を確認し合うことにより、自分の考えや表現が相手に伝わった度合などを視覚的に理解し、活動することができます。また、生徒が使用したい表現などは、授業前に把握し、授業の中で黒板やワークシートで共有するなど工夫します。



ポイント2



②～⑦ Small TalkやRetellingでは、生徒が多様な表現に触れられるよう、画像共有アプリを用いて「言いたかったけど言えなかった表現」を集約及び共有する場を設定します。また、活動後に自分のパフォーマンスを振り返り、改善につなげることができるよう、カメラアプリを用いて録画・録音したり、メモアプリを用いて自分が使った表現を蓄積したりする活動を位置付けます。

ポイント3

## 研究会

⑦ 研究会では、ミニディベートとRetellingを主な活動として行う予定です。自分の考えや思いを英語で伝え合おうとしている生徒の姿をご覧ください。

3年生 Program 6 “The Great Pacific Garbage Patch” の題材を使い、授業公開をする予定です。仲間と意見や考えを交換・共有しながら、主体的に言語活動に取り組む姿を目指します。

⑧～⑨ 「直江津海岸のゴミ問題を解決するために私たちができること」をALTに提案します(パフォーマンス課題)。

本時のRetellingではICT機器を使って録画・録音し、自分の音声を確認できるようにします。また、生徒は自分の設定した目標に合わせて、語彙や表現を選択したり、伝えたい内容を再び組み立てたりしながら、自己表現に挑戦します。

ポイント3



# 英語 <中越地区／燕市西蒲原郡中教研>

## 「1年：Unit 6,7 My Hero」

研究主題：目的・場面・状況に応じて、自分が言いたいことを適切な表現を用いて伝えることができる生徒の育成

開催日：11月10日（金）

会場校：燕市立吉田中学校

公開：1学級

授業者：北山 舜

指導者：長岡市立旭岡中学校 校長 今泉 祐治 様



研究推進責任者  
燕市立燕中学校

渡邊 義宏



教科・領域担当者  
燕市立吉田中学校

北山 舜

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

目的・場面・状況に応じて、自分が言いたいことを適切な表現を用いて伝えることができる生徒の育成を目指します。単元の目標達成に向けて、日々の帯活動で多彩な会話表現を練習・習得し、様々な場面設定での会話活動で使用する機会を増やすことで、臨機応変に表現を使い分けられる生徒の姿を目指します。言語や文化に関して、これまで素朴に認識していたことについて、言語活動を通して、「なるほど！」と新たな気づきを導く学びを目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 明確な目的・場面・状況の設定

深い学びにいたる単元デザインにするために、目的・場面・状況について、以下を明確にするように設定しています。

- ①目的：どのような新たな気づきをねらうか。
- ②場面：どのような言語活動で新たな気づきをねらうか。
- ③状況：どのような（文化的な）背景に配慮が必要か。

これらを明確にすることにより、言語活動において「見方・考え方」を働かせながら、深い学びにいたるプロセスが保証されると考えます。

#### ポイント2

#### 言語活動につながる対話練習や帯活動

目的・場面・状況に応じて、自分が言いたいことを適切な表現を用いて、その場で伝えることができることが、言語活動を通じた深い学びへのカギであると考えます。対話練習や帯活動がパターン練習に終始せず、練習タスクにより目的・場面・状況を意識した練習段階を踏むことが言語活動に繋がると考えます。

#### ポイント3

#### 生徒の心に火をつける導入

言語や文化に関して、これまで素朴に認識していたことについてズレやギャップを感じさせるような導入が「もっと知りたい」「もっと聞いてみたい」と、生徒の心に火をつけます。そのエネルギーが言語活動における主体的な学びに繋がりを、深い学びを導くと考えます。



## 単元(題材)の様子

① ALTと作成したMy Hero(アメリカで活躍する人物)のインタビュー動画を紹介し、⑭時の言語活動のモデルを示します。また、動画の中でALTから「日本で活躍している人についても知りたい」という発問を提示し、日米で活躍する人物についての「新たな気付き」を促します。

①～③ 三人称単数現在形の文型の導入と並行して、帯活動では、他己紹介で使われるモデル表現を学びます。繰り返し声に出したり、ペアでモデル表現を練習したりすることで、使える表現を増やしていきます。

### ポイント3

1 Hi, how are you?

やあ、元気？

2 Do you live around here?

このあたりに住んでるの？

3 Where do you live?

どこに住んでるの？

4 Wow, It's so far. How do you come to school?

おお、それは遠いね。どうやって学校に来るの？

5 On foot. My house is near the school.

徒歩だよ。私の家はここから近いんだ。

6 Are you in any clubs?

あなたは何か部団に入ってる？

### ポイント1

1 I'm so-so.

まあまあかな。

2 No, I don't.

いや、もがうよ。

3 I live in Aozu.

翠生園に住んでるんだ。

4 I come to school by bike.

How about you?

自転車に乗って来てよ。あなたは？

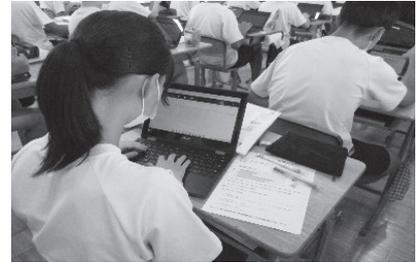
5 I'm jealous!

うらやましいなあ！

6 Yes, I'm in the brass band.

うん、吹奏楽部に入ってるよ。

④～⑦ 教科書Unit 6の本文「A Speech about My Brother」を読み、朝美のスピーチをモデルにして、帯活動で学んだ表現を使いながら、自分の家族や友達などの身近な人について紹介する文を考えます。



⑧～⑩ 人称代名詞と疑問詞 which, whoseの導入と並行して、帯活動では、今まで学習した疑問詞を復習しながら、第三者について質問する言い方やその答え方を繰り返し練習していきます。



## 研究会

⑪ 教科書Unit 7 Story 1の本文で紹介されるユアン・クレイグさんとダイアン吉日さんの2人について、教科書は読まずに、ペアでどちらかの人物の情報をもち (Information Gap)、帯活動で練習した表現で質疑応答しながら、もう一方の人物について理解します。

この練習タスクと帯活動において、⑭時で行う言語活動の際に活用できる表現を扱うことで、⑭の言語活動へと繋がります。

### ポイント2

⑫～⑬ Unit 7 Story 2とStory 3の内容を読み取ります。

また帯活動では⑦時で書いたMy Heroの原稿をもとにペアで互いに質問し、答え合う練習をします。

⑭ パフォーマンステスト

My Heroをインタビュー形式で紹介する様子をタブレット端末で撮影し、それを評価します。

### ポイント3

# 英語 <新潟地区／新潟市中教研>

## 「3年：I Have a Dream」

研究主題：主体的に学び合う生徒の育成  
～4技能5領域における思考力・判断力・  
表現力を高める指導を通して～

開催日：11月9日（木）  
会場校：新潟市立早通中学校  
開業者：鈴木 雛琴  
指導者：新潟市教育委員会

副参事（指導主事） 齋藤 まゆみ 様  
新潟市総合教育センター  
指導主事 佐藤 優子 様



研究推進責任者  
新潟市立寄居中学校

風間 皓介



教科・領域担当者  
新潟市立早通中学校

鈴木 雛琴

### こんな深い学びの姿を目指します

生徒が習得した言語材料を、コミュニケーションの目的・場面・状況等に応じて活用し、自分の考えを工夫して表現を深めていく姿を目指します。生徒の経験や体験等に準じたコミュニケーションの場面や状況を設定することで、生徒は伝えたい内容と、それに合った言語の整合を図りながら、表現を練り上げていきます。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 逆向き設計による、学習活動の有機的なつながり

単元末に何ができるようになるのか、何を表現するのか、生徒と教師がゴールを共有することにより、授業に臨む姿勢が変わります。

到達目標が明確になると、その目標を達成するために何をすべきか考えるようになり、生徒たちが主体的に学習活動に取り組むようになります。

#### ポイント2

#### 明確な目的・場面・ 状況の設定

生徒が何度も表現を思考し、判断し、表現するためには、習得した教科書の「構成」「内容」「言語」を、相手に伝えたいような状況設定が不可欠です。そのためにも、目の前の生徒の実態に応じて、教科書本文の内容をアレンジし、コミュニケーションの明確な目的・場面・状況を設定します。こうすることで、生徒は経験や体験を想起しながら、主体的に伝えたいことを表現しようとします。

#### ポイント3

#### ICTの活用

タブレット端末を活用し、指導者用デジタル教科書の「デジタル教材」と、学習アプリ「ロイロノート」を有機的に組み合わせ、教科書本文のコミュニケーションの目的・場面・状況等を、生徒の実態に合わせて、新たにアレンジします。

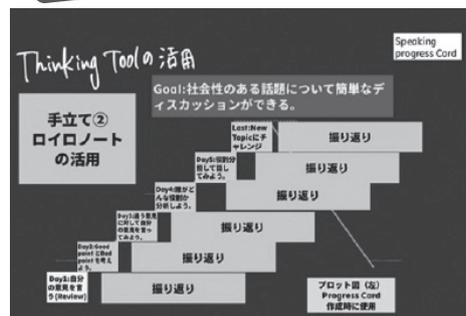
さらにタブレット端末の「共有機能」「閲覧機能」等を活用することで、生徒たちが容易に、級友と表現を共有したり、練り上げたりすることができます。

## 単元(題材)の様子(1年目の実践を踏まえて)

### (1) 単元のゴールを学習アプリや単元カードで共有

単元の導入部の授業で、生徒と単元のゴールまでの見通しや学習内容を共有します。「ロイロノート」のシンキングツールを活用することで、教師間、生徒と教師間で単元計画を容易に共有でき、「指導と評価の一体化」の充実も図ることができます。

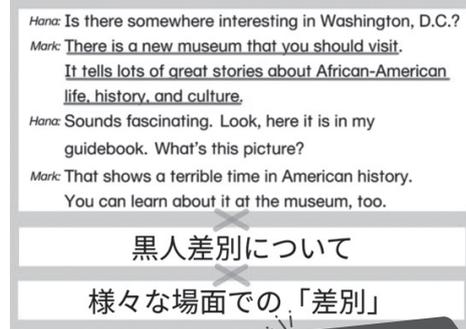
### ポイント1



### (2) 教科書の本文をモデルとして活用

教科書の本文を、生徒の実態に応じてアレンジし、生徒に提示します。生徒がコミュニケーションを成功させるために、どのような「構成」「内容」「言語」を用いればいいか教科書の表現をモデルとして活用できるようにします。

本単元のLesson 5では、歴史資料館での写真が伝える事実について、相手と会話を展開する場面を、修学旅行や学校行事などの場面と関連付け、生徒が理解し、活用しやすいモデルとして提示します。



### ポイント2

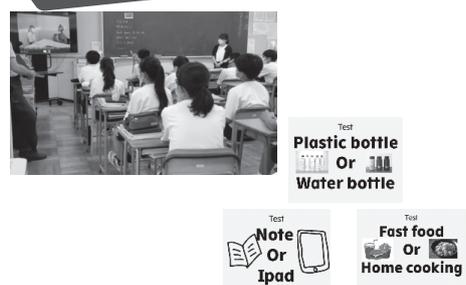


### (3) 明確な目的・場面・状況の設定

モデル文を習得した後に、明確な目的・場面・状況を設定し、生徒の経験や体験等を基に、一人ひとりの生徒独自の豊かな表現を引き出すようにします。

1年次の新潟市立鳥屋野中学校の実践では、Discussionのやり取りのモデルを生徒の日常場面で活用させる状況設定をしました。新潟市立黒埼中学校の実践では、小学校外国語活動のつながりを意識し、1年生が身の回りのものを紹介するモデルを基に、生徒のお気に入りのキャラクターをクイズで紹介し合うという状況設定をしました。

### ポイント3



### (4) 指導者用デジタル教科書と学習アプリを有機的に組み合わせ

英語が苦手な生徒でも取り組めるように、生徒が伝えたい内容に合わせて、デジタル教材や「ロイロノート」を組み合わせて作成したモデルの単語や語句を入れ替え、自己表現できるように「足場掛け」の工夫をします。

## 研究会

本単元では、単元末課題として、黒人差別に関する意見文を英語で書く課題を設定します。

生徒が本単元の題材及びその内容に興味・関心を持ち、主体的に課題に取り組むことができるよう、単元導入時に黒人差別に関する様々な資料を提示します。また、単元終了時に意見文を構築しやすくなるよう、各Partの学習で、その内容を整理し、黒人差別に関する資料の描写や自分の考えや感想を加えたミニレポート(2~4文)を書く活動を位置付けます。

そして、単元終了時に積み上げてきたレポートをまとめ、自分の意見や考えを再構築したり、より適切な表現を選択したりしながら、黒人差別についての意見文を築き上げる場を設定し、最後に完成した意見文をグループや学級で互いに発表し合います。

公開する授業では、GET Part 1の内容について各自が資料の描写をする文章を書く活動を行います。

# 英語 <下越地区／村上市岩船郡中教研>

## 「2年：Live Life in True Harmony」

研究主題：生徒の主体性を育み、見方・考え方に着目した授業の創造 ～生徒が生き生きと思いを伝え合う授業～

開催日：11月16日（木）

会場校：関川村立関川中学校

公開：1学級

授業者：曾川 信行

指導者：県立教育センター

副参事（指導主事） 下村 恵美 様



研究推進責任者  
村上市立荒川中学校

中山 えり子



教科・領域担当者  
関川村立関川中学校

曾川 信行

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

ゴールのパフォーマンステストにおいて、「伝わった」「分かった」という実感や達成感を得るために、見通しをもって学習に取り組んでいる姿を目指します。さらに、既習事項を応用し、自分の姿を客観的に確認しつつ、教師とまたは生徒間でやり取りし、協働学習の中で課題解決に向けて生き生きと思いを伝え合う生徒の姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 単元のゴールと学習計画の共有

単元導入のガイダンスにおいて、生徒と目標やルーブリックおよび学習計画を共有します。そうすることで、生徒は自分のゴールの姿をイメージし、見通しをもちながら学習に取り組むことができます。

また、単元課題の設定に関しては、学級の学習の雰囲気や生徒の興味・関心を考慮し、生徒がより「伝えたい」「話したい」という思いをもって、主体的に学習に取り組めるように工夫し、目的意識を明確にします。

#### ポイント2

#### 教科書をベースにしたインプット

教科書本文を生かしながら、帯活動やQ&Aなどで基礎的・基本的な表現を定着させます。即興的なやり取りの際に活用できる表現を蓄積・向上させます。

#### ポイント3

#### ICTの活用

タブレット端末を活用し、個に応じた学習支援を行います。音読練習、資料収集、課題や情報の提供、発表や振り返り、話し合いのツールとしての利用が可能です。モニタリングやフィードバックも効果的なタイミングで行えます。

## 単元(題材)の様子

- ① 単元の始めに単元ガイダンスを実施し、単元の目標とルーブリックを生徒と教師が共有します。今回は「自分の『推し』をみんなに好きになってもらおう」という目標のもと、それぞれの生徒が自身のゴールの姿をイメージし、様々な人物やもの、場所、イベントの魅力を探ねたり、紹介したりする活動に取り組みます。

### ポイント1



### ポイント2

- ①～② 教科書のスキットをもとに、受け身を用いて人物やものなどを紹介する言い方を学習します。帯学習の Picture Describing や Q&A を通じて、言語活動に必要なやり取りの表現を学んでいきます。
- ③～⑥ 帯活動で学んだ表現を使いながら、教科書本文の登場人物や出来事を紹介し、自分の考えを伝え合います。そこでの学びを、様々な人物やもの、場所、イベントについて紹介し合う活動につなげていきます。

- ⑦～⑨ タブレットPCのスライド機能を活用し、ALTや級友に画像を見せながら対話をしたり、録画機能を使ってやり取りの様子を撮影したりします。録画した動画で、生徒は自分のパフォーマンスをモニタリングします。また、教師に提出することで、表現方法についてアドバイスを受けたたり、「言いたくても言えなかったこと」や他の生徒の優れた表現を共有したりできます。

### ポイント3



## 研究会

- ⑦ 研究会では、「自分の『推し』を友達にも好きになってもらおう」というねらいのもとペア活動を行います。それぞれの生徒が、自分が好きな人物やもの、場所、イベント等から一つを「推し」として選び、パートナーも「推し」が好きになるように、その魅力について、語り合います。パートナーが質問したり、自分の意見を述べたりし、それに対応することで、即興的に会話を継続します。
- ⑧～⑨ ペアでの活動の後、「言いたくても言えなかったこと」や他の生徒の優れた表現の共有を行い、一旦英文にまとめます。後日、「ALTとお互いの『推し』を共有する」という最終目標のため、ALTとの1対1の対話を行います。

# 音楽

## 「思い」や「意図」を確かにしながら、豊かに表現する生徒の育成

何のために音楽を学ぶのか。どのように音楽科の学びを深めていけばよいのか。学習指導要領における音楽科改善の基本方針には、「思いや意図をもって表現する力を育成すること」、「音楽と生活とのかかわりに関心をもつこと」など、その方向性が明示されています。生徒が「思い」や「意図」をより確かなものにしながら、豊かに表現していく学習過程が、音楽科における「深い学びにいたる授業」の姿であると考え、実践研究を推進しています。



県中教研 音楽部 全県部長  
十日町市立中里中学校

校長 上村 みほ

### 「思い」や「意図」を高めながら、豊かな表現を目指す

「思いや意図をもって表現する力」の育成については、学習指導要領における音楽科改善の基本方針として重視されており、本研究会の音楽科重点目標にも位置付けられています。「思いや意図をもって表現する」とは、生徒が自分なりに表現したい音楽のイメージをもち、描いたイメージに合うよう、試行錯誤しながら工夫して表現すること、と捉えられます。

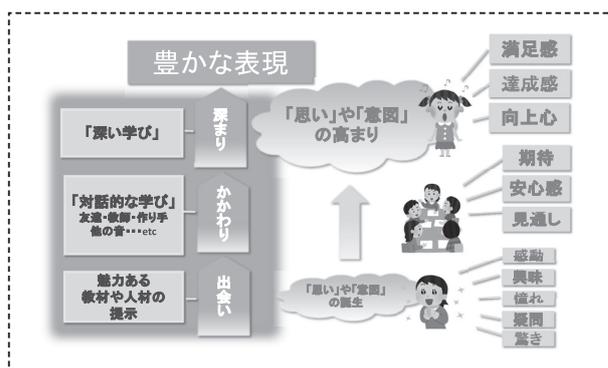
まず重要なのは、生徒と音楽(教材)との「出会い」です。この出会いを教師がドラマティックに演出することにより、生徒は興味、感動、驚き、憧れなどを抱きます。この時、既に生徒の中には「思い」や「意図」が生まれています。

ここで生まれた「思い」や「意図」を高める大切な手立ての一つが、「かかわり」を仕組むことで「対話的な学び」を生み出すことです。対話の相手は、友達や教師、音楽の作

り手、他の音楽など様々です。このプロセスを経て、生徒の中では期待(おもしろくなってきた)、安心感(だんだんわかってきた)、見通し(こんな風に表現してみよう)などが膨らみ、「思い」や「意図」はさらに高まります。

そして、題材の終末に教師が企図した発表や表現の場面などにより、生徒は満足感や達成感、さらなる向上心を抱き、次の題材へと「思い」をつなぎます。

こうした一連の学習過程に、音楽科の「深い学び」が内在すると考えています。



## 「思い」や「意図」を、より確かなものにする

実践を重ねる中で、私たちは、生徒が「思い」や「意図」を確かなものにしていくことで、表現がより豊かになり、学びが一層深まっていくのではないかと考えるようになりました。そこで、「思い」や「意図」の明確化という視点から、以下の手立てにより、さらに実践を深めることにしました。

### 【手立て1】…生徒に「他者意識」をもたせる題材構成の工夫

十日町市中魚沼郡中教研(会場校;十日町市立十日町中学校 以下、十日町中)の実践では、「校内合唱コンクール」や「郡市音楽交歓会」を題材の終末に位置付け、「思い」を伝える相手を意識した共感性のある表現を目指しました。

佐渡市中教研(会場校;佐渡市立佐和田中学校 以下、佐和田中)の実践では、「ご当地CMソングをつくろう」という題材を開発し、

音楽で佐渡の魅力を観光客に発信することに、挑戦しました。

このように、目的と対象を明確にすることで、生徒が一層主体的に表現活動に取り組み、学びを深める姿を期待しました。

### 【手立て2】…表現のイメージの明確化

十日町中では、表現する楽曲のイメージをイラストや画像で可視化することで、言葉にできない思いを表現できるよう工夫しました。

佐和田中では、ICTを効果的に活用し、つくった音楽が表現したいイメージと合っているか客観的に確認することを繰り返しました。

このように、音楽のイメージを明確化、共有化することで、生徒の「思い」や「意図」がより確かなものになり、生き生きと表現する姿が見られています。

## 知覚と感受の往還を自然に生み出す学習過程を工夫する

学習指導要領の〔共通事項〕には、「…音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること」と記載されています。この「知覚と感受の往還」は音楽科の学習の本質的な部分と言えます。

十日町中では、毎回の授業の導入に「帯活動」を取り入れ、音や音楽を「聴く」学習を重点的に積み重ねてきました。この取組により、生徒が音楽の基礎・基本を身に付けていくとともに、音楽を形づくっている要素を意識することが、習慣化することを目指しました。音や音楽に静かに耳を傾ける学習は、「正確な音程で歌唱する」など技能の向上にも結

び付いています。

佐和田中では、既習事項を学びに効果的に生かすことができるよう題材を工夫し、旋律、リズムなど音楽を形づくっている要素と表したい音楽のイメージとを結びつけながら、表現を深めてきました。

このように学習過程を工夫する取組により、生徒の中に知覚と感受の往還が自然に身に付いていき、「音楽的な見方・考え方」が育まれていきます。生徒は、音楽を形づくっている要素を支えとしながら、一層豊かな表現をつくり上げ、「深い学び」に迫っていくことができると考えています。

<引用・参考資料> 新潟県中越音楽研究会(2023)「研究総論」(2023年6月現在)

## 音楽 重点目標

生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる。

- 音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業を展開する。
- 音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。

# 音楽 <中越地区／十日町市中魚沼郡中教研>

## 「『思い』や『意図』をもって歌唱表現を工夫しよう」

混声三部合唱 あなたへ  
～旅立ちに寄せるメッセージ～

研究主題：思いや意図を歌唱表現につなぐ指導の工夫

開催日：10月13日（金）

会場校：十日町市立十日町中学校

公開：3学年

授業者：3年 本保 美帆子

指導者：魚沼市教育センター 指導主事 佐藤 孝子様



研究推進責任者  
十日町市立松代中学校  
友野 敦子



教科・領域担当者  
十日町市立十日町中学校  
本保 美帆子

### こんな深い学びの姿を目指します

楽曲に対して自分なりに表現したい音楽のイメージ（思いや意図）をもち、これまで授業で学習してきた知識や技能を生かして、楽曲にふさわしい歌唱表現を追求します。また、自分の考えを基に他者との対話を進めることで、「思い」や「意図」を深めます。そうして、音楽を形づくっている要素を意識した歌唱表現を楽しむ姿を目指します。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 音楽的な表現に必要な知識と技能の定着を図る

明確な意味付けのあるイメージや表現をするためには、基本的な音楽要素を理解する必要があります。そのため、毎時間授業の導入に聴音と楽典の小テスト、ミニ鑑賞を行い、基盤となる能力を定着させていきます。

特に、音楽の教育活動において重要な「聴く」学習から授業を開始することは、音に対する意識を高めるとともに、正確な音程で歌唱することにつながられると考えます。

#### ポイント2

#### イメージを可視化して他者と共有する

楽曲に対するイメージを、イラストや画像で表現することで、言葉だけでは伝えきれない思いを表現できるようにします。それは他者との共有を深め、方向性を統一することにもつながります。

#### ポイント3

#### 思いを届ける相手、聴く人を意識した演奏を行う

演奏者が共有したイメージや思いを一方的に合唱表現するのではなく、伝える相手を意識した、共感性のある演奏を行えるようにします。

## 単元(題材)の様子

①楽曲の背景や歌詞の内容と構造を分析し、理解することで、根拠をもったイメージの土台をつくります。

ゲストティーチャー(研究推進委員メンバー)が合唱活動に参加して、音楽的なアドバイスをします。

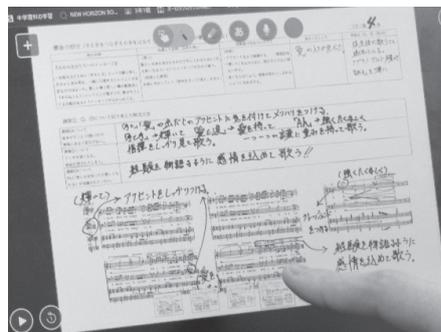
### ポイント1



②ICTを活用して、楽譜から各自が選んだ部分の楽曲のイメージ画像を作成します。このイメージ画像と楽譜、歌詞を基に、どのように歌うと思いが伝わる合唱になるかを話し合っていきます。(個人→グループ→クラス→学年)

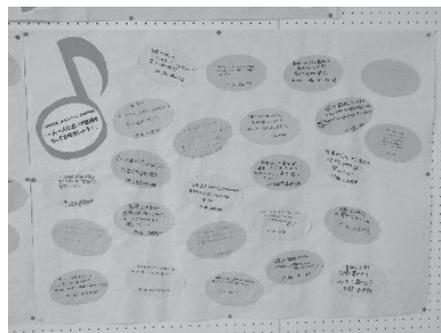
学年で共有した楽曲の1番と2番の合唱表現を生かして、終結部にふさわしい表現の追求を行います。

### ポイント2



③終結部における自分たちのイメージした画像を見ながら演奏し、聴いている人に思いを届けるために必要な課題を明確にしていきます。その際、音楽を形づくっている要素を意識し、読譜力を生かした根拠のある意見交換を行い、課題を解決するために必要な演奏技術をはっきりとさせます。

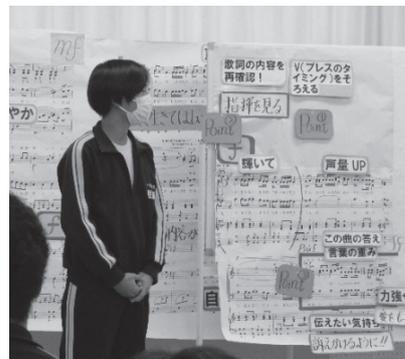
### ポイント3



## 研究会

④本時では、共有した演奏技術を生かした歌唱表現に取り組みます。この活動をとおして、伝えたい思いや意図を表現するためにはどのような技術が必要かを、より確かなものにすることができると考えています。

対話を深めながら思いを込めて合唱をつくり上げる楽しさや、喜びを感受できる授業を目指しています。



⑤この後行われる「校内合唱コンクール」、「郡市中学校音楽交歓会」において、イメージした内容、意図した思いを伝える演奏を行う予定です。この活動は、授業校だけでなく、郡市内の中学校も同じように取り組みます。そのため、音楽交歓会ではメッセージの交換をとおして、演奏する立場、聴く立場の両方を体験し、思いのやり取りができるようにしていきます。



# 音楽 <下越地区／佐渡市中教研>

## 「言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう」

～ご当地CMソングをつくらう～

研究主題：音楽を形づくっている要素を支えとして、  
思いや意図をもって表現する生徒の育成

開催日：11月24日（金）

会場校：佐渡市立佐和田中学校

公開：2学年

授業者：2年 山本 美保子

指導者：新潟大学 名誉教授 伊野 義博 様  
佐渡市立両津中学校 校長 嶋見 靖之 様



研究推進責任者  
佐渡市立高千中学校  
岩崎 かおり



教科・領域担当者  
佐渡市立佐和田中学校  
山本 美保子

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

生徒が表したいイメージをもち、音楽的な見方・考え方を働かせて創意工夫しながら創作活動に取り組む姿を目指します。興味関心を基に表現への思いをもたせ、音楽を形づくっている要素と表したい音楽のイメージとを結びつけながら、意図をもって表現を工夫することが「深い学び」に至るカギとなると考えました。

また、ICTを効果的に活用することで、主体的・協働的に音楽活動を楽しむ生徒の姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 目的と対象を明確にした課題設定にする

生徒が自分とのかかわりを要件として捉えられるような課題とゴールを設定することで、主体的に取り組む姿が期待できます。

#### ポイント2

#### ICTの効果的な活用を促す

タブレットを用いて、生徒が創った旋律をすぐ音に変換して確かめることができるようにします。

#### ポイント3

#### 既習事項を学びに生かせるようにする

これまでに学習した音階や言葉の特徴、音のつながり方の特徴などについて、表したいイメージと関わらせて音や音楽で示したり、生徒同士が感想を伝え合ったりしながら活動します。言葉の抑揚とリズムの関わりや旋律の跳躍による感じ方の違いなどを、知覚と感受を結びつけて、条件に沿った作品が完成できるように進めます。

## 単元(題材)の様子

①まず、地域の方や企業からの依頼を受け、佐渡の特産品をPRすることに意欲を高めていきます。

次に、印象に残っているCMソングを挙げながら、CMソングの効果、良さについて意見交換します。

その後、既存のCMのイメージとそのCMソングのリズムや旋律の特徴を捉えていきます。

### ポイント1



②自分がPRしたい佐渡の特産品や名所を一つ選び、その特徴やイメージを2語以上で表します。

例：おけさ柿→「甘い」「おいしい」

次に、表したいイメージを捉えます。例：「ゆったり」「なめらか」

リズムや旋律の特徴について、表したいイメージと関わらせて、わかったことや気付いたことをワークシートに記入します。

【リズム】	細かい	長い	弾む	ゆったり	タツカ等
【旋律】	上がる	下がる	順次進行	跳躍進行	なめらか
	波	山	谷		はぎれよい

③自分が表したいイメージをもとに、どのような音楽をつくるかについて考え、ワークシートに歌詞と音を記入します。記入した音を『song maker』に入力し、リズムや旋律の特徴を生かして創意工夫し、1人が一つ、15秒程度の音楽をつくります。

### ポイント2

### ポイント3



## 研究会

④3人1グループになり『song maker』に入力した作品を聴き、感想を伝え合います。制作者は、創作した作品について、なぜそのリズムと旋律にしたのか根拠をもって説明していきます。創作した作品を歌えるようにし、完成させていきます。



⑤歌を完成させ、録音します。出来上がった作品は、地域の施設で流してもらいます。

# 保健体育

## 豊かなスポーツライフの実現を目指した保健体育の授業づくり

保健体育科では、生涯にわたって運動に親しみ、豊かなスポーツライフを実現できる資質・能力の育成が求められています。

生徒が夢中になり没頭するところから学びがスタートします。生徒が主体的に学習に取り組み、「運動が楽しい」と実感できるためには、学習内容を吟味して提示したり、ルールを工夫したりすることが大切になります。「知識・技能」を活用して「思考・判断」を巡らせ、「学びに向かう力」を養う授業づくりを目指します。



県中教研 保健体育部 全県部長  
長岡市立刈谷田中学校

校長 北山 智博

### 楽しい授業の積み重ねが、豊かなスポーツライフ実現につながる

運動が上達する原動力は「楽しい」と感じることです。しかし、教師が「楽しむ」とか「好きになる」ということより「技能を身に付けさせる」ことに重点を置くと、かえって体育（運動）嫌いにしてしまう危険性があります。「体育＝技能の習得」ではない授業づくりが必要になってきます。学習指導要領の改訂で、評価の観点が【知識及び技能】とセットなり

ました。これは知識と技能が関連づいているので、できなくてもやり方が分かっているからアドバイスしたり、練習方法や作戦を提案したりして、体育の楽しさに触れることができ、達成感にもつながります。技能ができなくても学びが保証され、「体育好き」な生徒が育ち、豊かなスポーツライフの実現につながります。

#### 【主体的な学びのための授業改善の視点】

- ① 生徒の興味・関心を喚起しているか
- ② 学習の見通しを明示しているか
- ③ 本時または単元の課題と課題解決のための活動を明確にしているか
- ④ 毎時間の振り返りを行っているか
- ⑤ 本時または単元の学習の成果を確認しているか

#### 【主体的な学びを促すためのチェックリスト】

- 導入の工夫と雰囲気づくり
- 活動の見える化
- 生徒の実態に応じた課題の提示
- 場や用具、ルール等の工夫
- 適切な言葉かけ
- 苦手な生徒、意欲のない生徒への配慮
- 教える、委ねるのバランス

## 主体的・対話的な学びの視点からの授業改善

主体的な学びの視点からの授業改善では、まずは生徒の興味・関心を喚起しているかどうか大切です。興味・関心を掻き立てるような教材や教具、場や用具、ルール等の工夫により生徒の主体性を引き出すことにつながります。

2つ目は学習の見通しを明示することです。生徒に見通しを持たせることで、次に何をすればよいかという意識につながります。

3つ目は課題とその解決のための活動を明確にすることです。課題が明確であったか、それを解決するための活動が十分に保障され

ていたかどうかという視点で授業改善を図ります。他には振り返りと成果の確認が重要になります。

対話的な学びのための授業改善の視点としてまずは「見る」ということです。教え合うにも励まし合うにも見てないとできません。他人事を自分事にする事で対話が生まれます。また、見る視点(ポイント)を明確にするため、教師から積極的に言葉掛けをすることが大切です。ICTを活用したり、ボディランゲージ、オノマトペといった体育ならではの対話も効果的です。

## 深い学びの視点からの授業改善

深い学びという視点で授業改善を考えるとき1つ目は、多様な課題や活動をしっかりと保証しているかどうかです。生徒は易しい課題を繰り返しているだけだと飽きてしまいます。生徒は試行錯誤を繰り返すことで、課題を解決したり新たな気づきに出会います。その瞬間こそ、深い学びの一つの場面と考えます。

2つ目は、生徒の思考に深まりが見られているかという視点で授業を考えることです。

何となく課題を出して、活動を変えていくだけでは深い学びにはなりません。生徒自身が自分なりに思考を深めていく活動があったときに、深い学びが現れるのではないかと考えます。

3つ目は、見方・考え方に関わってきます。体育や保健の見方・考え方を働かせているかどうかという視点で授業を改善することが大切です。

### 【対話的な学びのための授業改善の視点】

- ①生徒一人一人の表現力を伸ばしているか
- ②課題解決の場面等で必然性のある対話が展開されているか
- ③生徒の新たな気づきや動機付けにつながっているか

### 【深い学びのための授業改善の視点】

- ①易しい課題に終始せず試行錯誤を促しているか
- ②課題解決に向けた思考に深まりが見られているか
- ③体育や保健の見方・考え方を働かせているか

## 保健体育 重点目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、明るく豊かなスポーツライフを実現する資質能力を育てる。

- 生徒の実態把握の充実
- 保健体育の見方・考え方を働かせることを意識した授業
- 学習過程、単元構成の見直し、工夫及び指導と評価の一体化の工夫、充実
- 楽しい授業、UDLの推進
- 個に応じた運動量の確保と体力の向上

# 保健体育 <上越地区／上越市中教研>

## 「2年：武道（柔道）」

研究主題：ICTを効果的に活用し、気付きと学びを  
深め合う生徒の育成

開催日：11月14日（火）

会場校：上越市立柿崎中学校

公開：1学級

授業者：3年 村山 浩

指導者：上越教育大学 教授 周東 和好様



研究推進責任者  
上越市立大潟町中学校  
長澤 崇広



会場担当者  
上越市立柿崎中学校  
村山 浩

### こんな深い学びの姿を目指します。

組んでから投げるまでの一連の動作の中にある「崩し」の局面をグループ内でタブレット端末を活用しながら、自分や仲間の動きの中から発見したり、分析したりして考えを深めます。振り返り活動では、得た学びを図解して記述します。一人一人の思考力・表現力を高め、より主体的に学びに向かう姿を目指します。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 視点を共有する。

大画面のモニターを活用し、「課題を理解する活動」や基本的技能の習得やフィードバック修正活動に用います。生徒はモニターを見て、見本の動き等を確認でき、授業者は生徒の実態に応じた、効果的なフィードバックをすることができます。

#### ポイント3

#### 学習カードを工夫する。

学習カードは、図解を入れられるよう枠が大きな書式に設定します。学びの過程や感覚を言語化・文章化することは、動きの自己観察を促し、真の理解・習得につながります。技のコツや動きを図解で示すことを大切に、生徒の記述が授業者との対話のツールにもなっています。

#### ポイント2

#### タブレット端末を活用して意見交換をする。

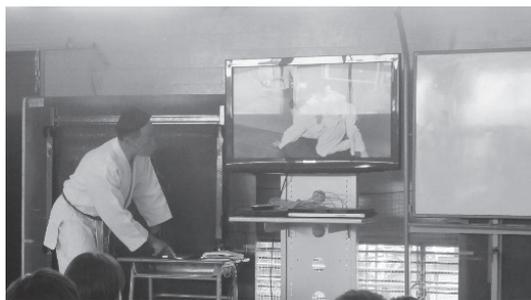
動画を撮影し、自己の動作を視覚的に確認したり、仲間の動作から、理想の動きの局面を捉えたりすることができます。理想の動きに近づけるために、必要な手立てや上手な人との動きの違いから自己の課題把握や解決策を話し合い活動から導き出します。

## 単元(題材)の様子

固め技についての動画は、4方向から順番に技の入り方を見ることができます。

投げ技は、足の運びや両手の使い方を確認することで動作のイメージが付きやすくなります。ゆっくり、くり返し見ることで、理解が深まります。

ポイント1



柔道はペアでの学習場面が多いですが、複数の相手と学習を進めることで、新たな気づきや学びなど学習への深まりが期待できます。そこで、少人数のグループ学習を基本とし、グループごとに動画撮影をし、技をしかける前の崩し方を考えさせたり、「崩し」の動作の局面を捉えたりすることができます。効果的に崩して、技へとつなげていくイメージ

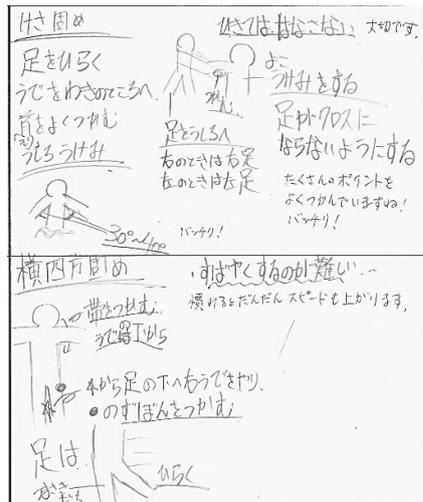
ポイント2



略図を描きながら、技能のポイントや学んだこと、気づきなどを書き込むことで、思考の過程を記録に残すことができます。生徒の理解度や思考の深まりが評価しやすくなります。毎

時間提出させ、次の時間に返却することで、生徒の疑問やつまずきへ素早く対応できます。毎時間の生徒の変容を捉えて、フィードバックをしていくことが、深い学び

ポイント3



## 研究会

ポイント2

研究会では、既習事項の基本動作と基本となる技を用いて、相手の動きの変化に対応した攻防ができることを目標に授業を展開します。相手の動きに応じた動作であるため、「崩し」から相手の不安定な体勢をとらえて、技をかけやすい状態をつくる「体さばき」や「引き手・つり手」の使い方をグループ内で話し合い、自己の課題解決や技能の向上につなげます。



# 保健体育 <新潟地区／新潟市中教研>

## 「1年：心身の機能の発達と心の健康」

研究主題：「課題を持ち、主体的に学び合う生徒の育成  
～深い学びにいたる、わかる・できる授業を目指して～」

開催日：10月18日（水）

会場校：新潟市立白根北中学校

公開：1学級

授業者：2年 新井 慧真

指導者：新潟市立総合教育センター

副参事（指導主事） 音田 和行 様



研究推進責任者  
新潟市立木戸中学校

阿部 健



教科・領域担当者  
新潟市立白根北中学校

新井 慧真

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

「欲求への対処」において、欲求が満たされない「欲求不満」の時、どのような行動をとるべきかについて考えを深めます。自分事として捉えやすい身近な状況を設定し、個人の意見をもとに、班の中で拡散・収束していきます。その際、タブレット端末のシンキングツール（座標軸）に行動カードと自由記述カードを配置し、班の中で意見を共有しながら、より適切な行動について考えていきます。関わり合いを中心に深い学びにつなげていくことを目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

タブレット端末のシンキングツールを活用し適切な行動を可視化する。

ロイロノートのシンキングツール「座標軸」を用いて欲求不満への対処方法を分類します。縦軸にはその対処方法が「あり」か「なし」かを、横軸には欲求が「満たされる」か「満たされない」かをとり、行動カードを配置していきます。

配置するには、それぞれの考え方や意見があり、関わり合いを通して配置することで、無意識で行っている行動選択の行動基準が可視化できます。

#### ポイント2

自分事として捉えることができる身近な状況を設定する。

中学生にとってありがちな欲求不満の状況を設定し、自分事として捉えるようにします。より現実的で、実生活の中で生きる考え方や行動選択へと学びをつなげていきます。

#### ポイント3

関わり合いの中で学びを深める。

他者の考えとの共通点や相違点から、自分の考えを振り返ることで、深い学びの姿につなげます。

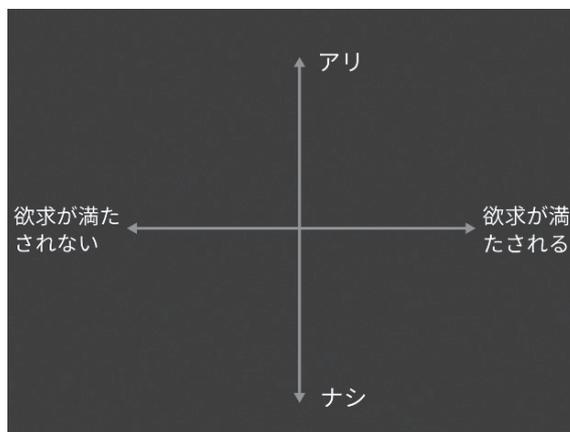
## 単元(題材)の様子

○前時で学習した「欲求」について振り返るとともに、欲求が満たされない、欲求不満の際にどのように行動したらよいか」について課題を引き出し、適切な行動について思考を促します。

○テーマ1として「テストで目標点数を取れなかった時」を例に挙げ、その適切な行動について考えます。テーマは生徒が自分事として捉えやすい、イメージしやすいテーマを設定します。6枚の行動カードを黒板に示した座標軸を使ってどこに配置していくかを全員で考え、座標軸の使い方を確認します。行動カードの対処が欲求を満たすものかどうか、本当に適切な行動なのかを可視化していきます。

ポイント1

ポイント2



ポイント2

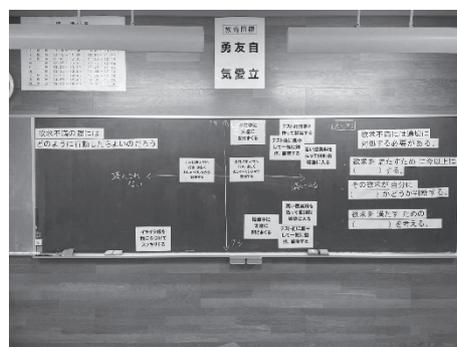
ポイント3

○テーマ2「あなたは今欲しいものがありますが、所持金が足りず買うことができません」を提示し、まずは自分で行動カードを配置していきます。自由記述のカードには、自分で考えた対処の行動を記入し配置していきます。

ロイロノート、共有ノート、シンキングツールを活用し、班の中で拡散・収束しより理想的な行動を見つけていきます。配置した理由や、自由記述として挙げた具体的対処の理由について、互いに意見を交わすことで多くの視点から適切な行動を選択していきます。

(2)「欲しいものを買えない」行動カード

きょうだいでお金を出し合っ て買う	お小遣いを 前借りしてお金 をもらって買う	親のお金を 2000円盗んで 買う
同じものを 持っている友達 に借りる	お金が貯まるま で我慢する	8000円の別の ものを買って 気を紛らわせる



## 研究会

○関わり合い、学び合いにより深い学びへとつながると考えています。ポイント1、2、3がうまく連動し、生徒の関心・意欲を高め、考えを可視化できるツールを活用しながら、学び合いにより多様な視点からの考えがあることを知り、より学びが深まる授業を予定しています。



# 学校保健

## 自分の心身の健康について見つめ、 課題解決を目指した健康教育

中学生は心身の成長が著しい思春期にあり、抱える不安や悩みを受け止めきれずに身体症状や問題行動に現れてしまうことがしばしば見受けられます。

今回、自分の心と体に向き合い、深い学びにいたる授業を通して適切な意思決定や行動選択をし、日常生活に結び付けていけるような健康教育を提案します。



県中教研 学校保健部 全県部長  
上越市立潮陵中学校

養護教諭 高橋 由子

### 健康教育の三つの柱

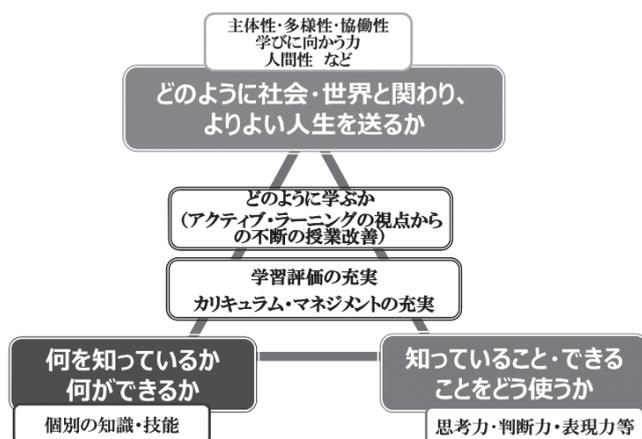
子供たちを取り巻く健康・食・安全に関する環境が大きく変化し、それに伴い健康課題も多様化・複雑化しています。

こうした課題を乗り越えるためには、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力を子供たち一人一人に育むことが求められます。

学習指導要領改訂では、初等中等教育段階における心身の健康の保持増進に関する指導の資質・能力の育成に向けて、発達段階や各

教科等の特性に応じて育まれるよう、各教科等の目標や指導内容を資質・能力の三つの柱に沿って下の図のように構造化しています。

また、指導に当たっては、生徒の内容への興味・関心を高めたり、思考を深めたりする発問を工夫すること、自他の日常生活に関連が深い教材・教具を活用すること、事例などを用いたディスカッション、ブレインストーミングなど、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することも示されています。



#### 【個別の知識及び技能】

健康な生活を送るための基礎となる各教科等の知識・技能

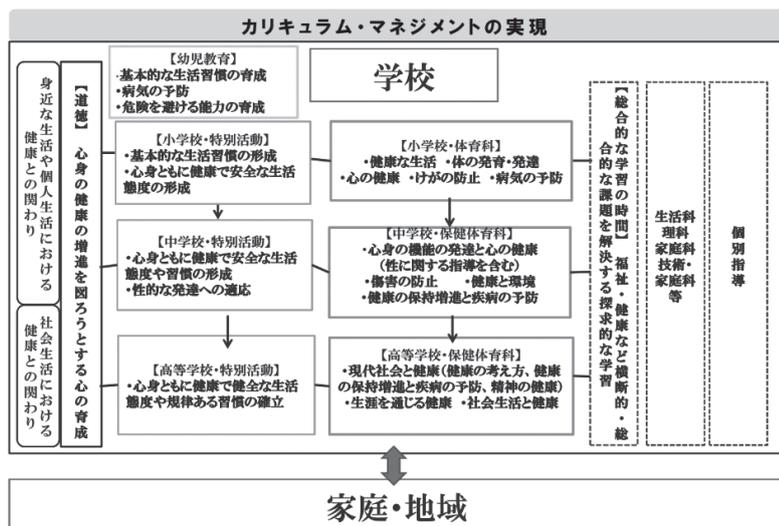
#### 【思考力、判断力、表現力等】

自らの健康を適切に管理し、改善していく力  
健康に係る情報を収集し、意思決定（意志決定）行動選択していく力等

#### 【学びに向かう力、人間性等】

健康の大切さ、健康の保持増進に向かう情意や態度等

## 心身の健康の保持増進に関する教育のイメージ



左図にあるように、現代的な健康に関する課題解決的な学習や自他の健康の保持増進を目指した主体的・協働的な学習の充実等を図るためには、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実現が重要になります。

指定研究校である長岡市立与板中学校では、教育活動全体で「心の健康教育」に取り組み、胎内市立黒川中学校では、教科保健体育の保健分野「心身の機能の発達と心の健康」での取組を行っています。

## 深い学びにいたる対話的な学びを実現させるための工夫

「対話的な学び」とは、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めることとされています。子供の学びの姿とそれを実現する教師の働きかけの在り方については、次のようにそれぞれの視点で示すことの有効性が示唆されています。

### 【授業改善に向けた「学習者」の視点】

- ・ 子供同士の協働を通じ、自己の考えを深める
- ・ 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・ 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- ・ 先哲の考え方を手掛かりに考える

### 【授業改善に向けた「授業者」の視点】

- ・ 思考を交流させる
- ・ 交流を通じて思考を広げる
- ・ 協働して問題解決する
- ・ 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す

指定研究校である胎内市立黒川中学校と郡市学校保健部は、1年次のプレ授業を通じて、「生徒同士の対話の深まり」を課題に挙げ、今年度「自己の考えを深化させる対話の在り方」について研究を推進してきました。研究会では、授業者がどのような「深める問い」を誘発する働きかけを学習者(生徒)に投げかけるかを中心にご覧ください。長岡市立与板中学校では、継続的に行っている「こころ☆タイム」で学習した話し方・聞き方・会話の仕方を、研究会の話合い活動にどう活用しているかをご覧ください。

「対話的な学び」を通じて、自己の考えを広げ深めるだけでなく、その先として自分の周りにいる相手(友達)にも目を向け、よりよい解決に向けて適切な意思決定や行動選択を伝える生徒の姿についてもご注目ください。

### 【引用・参考文献】

- ・ 文部科学省(2016):「健康、安全等に関する育成すべき資質・能力」総則・評価特別部会 資料3-1(2023年8月現在)
- ・ 文部科学省(2017):「【保健体育編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説」
- ・ 文部科学省 国立教育政策研究所(2020):「学習指導要領を理解するためのヒント」(2023年8月現在)

## 学校保健 重点目標

生きる力を育む健康教育を推進する。

- 連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。
- 生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修を進める。

# 学校保健 <中越地区／長岡市・三島郡中教研>

## 「受け止めよう！」

### 友達の『悩みの種』

研究主題：自らの不安や悩みに向き合い、課題を解決する力を育てる心の健康教育  
～「SOSの出し方に関する授業」を通して～

開催日：10月31日（火）

会場校：長岡市立与板中学校

公開：1学級

授業者：3年 渡邊 健太郎（教諭）  
浅沼 文子（養護教諭）

指導者：県立教育センター 指導主事 町田 央子 様  
長岡市立神田小学校 校長 田邊 輝明 様



研究推進責任者  
長岡市立東中学校

高澤 美雪



教科・領域担当者  
長岡市立与板中学校

浅沼 文子

#### こんな深い学びの姿を目指します

本実践では3年間を通して「①自分の気持ちを考えたり言葉にしたりする⇒②心が苦しいときの対処法を考える⇒③友だちの悩みを受け止める方法を考える」3つのステップで不安や悩みに対処する方法を学習しています。本時では友達の『悩みの種』の受け止め方考える活動を行うことで、自分の心や体と向き合い、自他との対話を通して適切な意思決定や行動選択について、根拠をもって考える生徒の姿を目指します。

#### 深い学びにいたるポイント

##### ポイント1

##### 中学校3年間を通じた 系統的な取組

新潟県自殺予防教育プログラムを基に中学校3年間で系統的に「SOSの出し方に関する授業」を実施します。発達段階や自校の実態に合わせた課題を設定し、生徒が「自分事」として取り組める学習内容にしました。

##### ポイント3

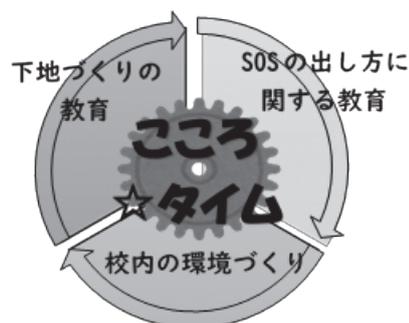
##### 互いに支え合える「安心感」のある集団の育成

相談する立場、相談を受ける立場の両者の気持ちを考える活動を通して、ゲートキーパーとして周りの人を支えようとする意識や集団として互いに支え合える安心感を育めると考えました。

##### ポイント2

##### 教育活動全体で取り 組む「心の健康 教育」

「こころ☆タイム」を中心に、「SOSの出し方に関する授業」「校内の環境づくり」「下地づくりの教育」を実施し、教育活動全体で「心の健康教育」に取り組みます。

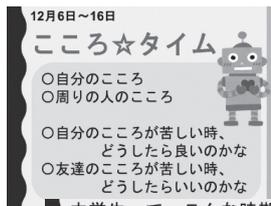


## 単元(題材)の様子

「SOSの出し方に関する授業」は中学校3年間で構成します。人間関係づくりに関する活動(ころ☆タイム)や生徒会活動と関連させながら、「心の健康教育」に教育活動全体で取り組みます。

ポイント1

ポイント2



### ①不安や悩みがあるときの対処方法を考えよう(1年生)

SOSの出し方に関する授業のスタートとして、スクールカウンセラーによる講話を聞き、不安や悩みがあるときの行動を考えます。

ポイント3

### ②「悩みの種」との付き合い方を考えよう(2年生)

アンジェラアキ「手紙～拝啓十五の君へ～」の歌詞を引用し、不安や悩みを「悩みの種」として学習を進めていきます。与板中学校の先輩の作文を基にした資料「先輩の悩みの種」を活用し、悩みの対処方法を考えます。

次に「悩みの種」との付き合い方を、「一人でできる方法」、「誰かの力を借りる方法」に分け、それぞれの良さを考えます。友達との意見交流を通して、「自分なりの対処方法」を考えることにつなげていきます。

自分一人でできる方法	3班	誰かの力が必要な方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>イヤなこと、出来ごとを聞く</li> <li>寝る</li> <li>好きなことをする</li> <li>その考えについて自分なりに考え、解決する</li> <li>自分の好きな音楽を聞いて気持ちを紛らす</li> <li>食べる</li> <li>外で友達と遊ぶ</li> <li>避んで気を紛らす</li> <li>本を読む</li> <li>youtubeを見る</li> <li>お笑いを見る</li> <li>サッカーする</li> <li>Googleで音楽、元気を検索する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3班のみ使用する(手書き禁止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人に自分の悩みをさぐりだしたりする</li> <li>出かける</li> <li>とにかく人と話して悩みを減らす</li> <li>誰かに相談してみる</li> </ul>
<p>自分一人でできる方法の良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すぐできる</li> <li>誰にも迷惑をかけずに解決することができる</li> <li>自分しか知らないこと、自分だけの良きから</li> <li>自分で決断し、見つけられる</li> <li>気軽に考えやすい</li> </ul>	<p>一人で抱え込まない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わがままでももらえる</li> <li>様々な視点</li> </ul>	<p>誰かの力が必要な方法の良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>違う視点で悩む事を見られる</li> <li>人に相談することで、一緒に解決方法を見つけられる</li> <li>色々な意見がわかる</li> <li>共感してもらえる</li> </ul>



### ③「悩みの種」を伝えてみよう(2年生)

気持ちの伝え方を参考にして、話し手、聞き手、観察者になって「悩みの種」を伝える活動を行います。

### ④学年の「悩みの種」(3年生)

自学年の悩みや相談する相手の傾向を共有し、友達から相談されたらどうするかを考え、次時へとつなげます。

## 研究会

### ⑤受け止めよう！友達の「悩みの種」(3年生)

ポイント3

研究会では、自分が相談を受けたときの「受け止め方」を考える授業を公開します。「話して良かった」と友達に感じてもらうためには、どんな言葉や態度で聞けばよいかを考えます。自分の経験を振り返ったり、グループ活動で友達と考えを共有したりしながら、心が苦しいときの自分なりの解決方法について根拠を持って考える授業を目指します。

### ⑥状況に応じた「悩みの種」の受け止め方を考えよう(3年生)

ポイント3

単元の最後に、自分の心が苦しくなったときや友達の不安や悩みに気付いたときの行動について「シナリオ」を考え、ロールプレイを行います。活動を通して、状況や自分に合った意思決定や行動選択を考える生徒の姿を目指します。

# 学校保健 <下越地区／阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研>

## 「心身の機能の発達と心の健康

### （エ）ストレスへの対処」

研究主題：対話を通して自己の考えを深化させる授業づくり

開催日：11月2日（木）

会場校：胎内市立黒川中学校

公開：1学級

授業者：1年 河崎 昭文（教諭）  
榎本 真那香（養護教諭）

指導者：下越教育事務所学校支援第2課 指導主事

中山 小百合 様



研究推進責任者  
胎内市立築地中学校

菅原 菊子



教科・領域担当者  
胎内市立黒川中学校

榎本 真那香

#### ・こんな深い学びの姿を目指します・

心と体のつながり、ストレス反応を知識として理解した上で、演習しながら効果的なリラクゼーションやリフレーミングなどの実践的な対処方法を身につけている姿。

学び合いの場面で自己内対話を通して自分の内面を言語化し、他者と意見を交わしながら対話を深め、クラスメイトの考えから自己に問い返すことで自己理解を深め、自分に合う課題解決法を考えている姿。

#### ・深い学びにいたるポイント

##### ポイント1

#### ストレスへの多様・実践的な対処方法を知って習得する

これから出会うストレスへの対処方法は様々あるものの、心と体の相関、他者への影響を考えた上で自分に合った効果的なものを選択し、それを実践することが大切です。

第1～3時では、授業者（保体科教諭）と一緒に学び基本的な知識を得るとともに、対処方法（特にリラクゼーション）について演習を通して身につけていきます。

##### ポイント2

#### 「考え方のクセ」を転換する

どんな人にも「考え方のクセ」があり、同じ事象が起こってもとらえ方は様々です。第4時（本時）では「黒中あるある」事例を通して他者意識をもちながらリフレーミングを行い、多様な考えに触れながら自分も他者も大切に物事のとらえ方をできるようにしていきます。

##### ポイント3

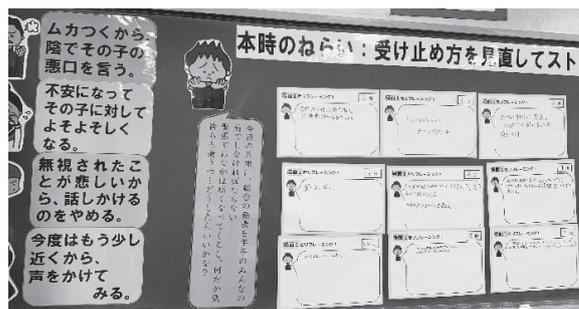
#### （自己内で・クラスメイトと）対話する

第4時（本時）には保体科教諭と養護教諭のTTで、それぞれの専門性を生かした働きかけや机間支援を行います。生徒がこれまで気づかなかったものの見方・とらえ方や他者の意見をとり入れ、心を軽くしながら、周りの人と「よりよい未来の関係性」を築いていけるよう、授業者は生徒に「深める問い」が生まれるよう対話の深まりを促していきます。

## 単元(題材)の様子

- ① 1年次のプレ授業実践校(聖籠中他)では、単元学習前後でストレス対処に関する意識の向上が図られました(アンケート結果より)。

しかし、授業内での生徒同士の対話の深まりに関しては、より一層の工夫が必要だととらえました。そこで、2年次では自己の考えを深化させる対話の在り方の研究を継続しました。



- ①~③ 本単元の基本的内容を保体科教諭と学習します。小学校5年生で「現象として」学習した「心と体はつながっている」ことを、中学校1年生で「科学的に」学んでいきます。

生徒たちはこれから一層、ストレスを経験していくことになるでしょう。その時に、自分も他者も大切にできる視点で、自分に合った方法でストレス対処をできることが大切になります。学習の中でリラクゼーションの方法を実践的に身につけていきます。

ポイント1

### 研究会

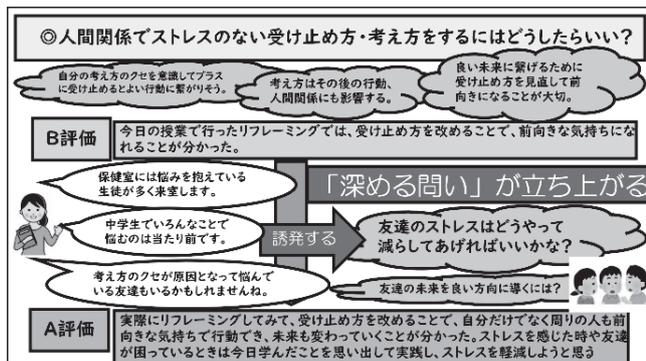
ポイント2

- ④ 誰しももっている「考え方のクセ」を見える化し、自分のとらえ方とクラスメイトのそれとは必ずしも同じでないこと、様々な受け止め方があることを知ります。

そして、その後の自分の考え方やとる行動により未来が変わっていくことを、リフレーミングを通してつかんでいきます。



1年次プレ授業(築地中)



さらに「深める問い」が生徒の中に生まれるよう授業者は投げかけます。リフレーミングによって、自分だけでなく他者のストレス軽減も図れ、よりよい未来につながることに生徒たちは気づいていきます。

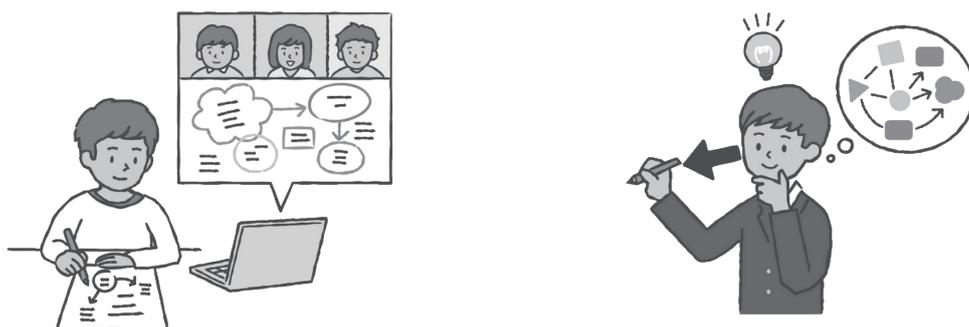
第4時(本時)では、保体科教諭(T1)と養護教諭(T2)のTTで授業を展開していきます。T2から、普段の保健室や学校生活でとらえている生徒たちの姿をもとに「自分+友だち」のどちらも大切にできるリフレーミングをするとよいことに気づけるよう働きかけます(左図;対話の地図<sup>1)</sup>)。すると生徒たちに「他者意識をもって前向きな考え方の転換をするといよいのでは?それならどうリフレーミングする?」というような自己内対話が生まれ、話合いを深めていく姿が見られることを期待します。

ポイント3

<出典> 1)新潟県教育庁下越教育事務所「Teachers'2022+<対話の地図>」

- ⑤ 単元全体の振り返りはGoogleFormsを活用して行います。単元学習前に実施した生徒たちのストレス対処への意識や今後とろうとする行動が、学習したことによりどう変化したかをみます。その後、生徒は学習したことを生かして生活実践します。第4時(本時)から一ヶ月後にも効果測定をして、2年間の研究成果をまとめます。

## 2 指定研究 1 年次の進捗状況



今年度、指定研究がスタートした研究推進委員会について、進捗状況をお知らせします。

国語 数学 道徳 美術  
技術・家庭 特別活動 総合的な学習の時間



# 国語

## 課題を工夫し、伝え合う場を充実させた授業をデザインします！

深い学びには、伝え合う場の充実が必要です。本時のねらいが書かれた文自体の主語・述語の係り受けを理解させ、生徒にねらいを納得させることで、課題は個が意欲的に交流できる課題へと進化します。



全県部長  
糸魚川市立青海中学校  
校長 渡辺 徳彦

### ▶上越地区

#### 自分ごとになる課題・伝え合いを！



上越市中教研  
上越市立直江津東中学校  
丸山 徳子

生徒が課題を「自分ごと」として捉え、考えを深めていく授業づくりを目指します。今年度は『平家物語～扇の的～』で、課題の工夫・伝え合う場の充実に取り組みます。

研究推進委員会で、『平家物語』の魅力語り合いました

### ▶新潟地区

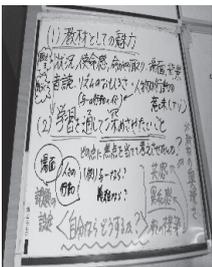
#### 学び合いを通して「見方・考え方」の深まりを！



新潟市中教研  
新潟市立濁川中学校  
及川 陽子

主張についての根拠や理由付けを共有する授業を通して、心情や作者の意図に迫ります。一語一語を大切に読み解くことで作品の読みを深める授業を目指します。

研究推進委員会の様子



### ▶中越地区

#### ICTをキーワードに実践！



魚沼市中教研  
魚沼市立堀之内中学校  
北村 紗月

推進委員会で「ICTの活用」をキーワードに掲げ、研究を進めていくことを確認しました。9月までに各校でICTの活用をテーマに実践を行い、それをもとにしたプレ授業を10月に予定しています。

6月のICTを活用した提案授業の様子

### ▶下越地区

#### 「学習ログ」を活用して深い学びを！



新発田市中教研  
新発田市立七葉中学校  
堀田 和恵

推進委員会で目指す深い学びの姿を「個別最適な学びの実現」と捉え、それを具現化するための手立てについて話し合いました。「学習ログ」の有効的な活用を考えながら実現を目指します。

研究推進委員会の様子



# 数学

## 数学的活動を充実させ、 数学的に考える資質・能力 を育む授業づくりを進め ます

数学的に考える資質・能力を育む上で、数学的活動の充実は不可欠です。「問題発見・解決の過程」においてどのような課題があるか、各地区で焦点をあて、改善に必要な手だて等を探り、数学的活動の充実を目指します。



全県部長  
小千谷市立片貝中学校  
校長 山本 俊介

### ▶上越地区

#### 授業を参観し合い検討します！



上越市中教研  
上越市立城東中学校  
高橋 昌平

研究主題は、「生徒が主体的に学び、数学的な思考力を育む授業づくり」です。数学的な見方・考え方を働かせ、論理的な思考力を育む指導について検討していきます。

委員同士で互いに授業を参観し合い授業づくりを進めます。



### ▶新潟地区

#### 一年間熟成させます！



新潟市中教研  
新潟市立上山中学校  
関谷 卓也

数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する授業を目指しています。一年間かけて授業を練り上げ、来年度の指定研究会で公開します。

指導案を検討しています。秋にはプレ授業を行います。



### ▶中越地区

#### 「課題意識」と「見通し」を！



長岡市・三島郡中教研  
長岡市立宮内中学校  
星野 志保

生徒の既知の知識を一般化するとき、「課題意識」や「課題追究に向けた見通しや手順」をどのようにもたせるかをテーマとして、教師の手立てや働きかけを探っていきます。

研究推進委員会での様子です。



### ▶下越地区

#### 課題解決を図る生徒を目指して！



五泉・東蒲中教研  
阿賀町立阿賀津川中学校  
大竹 大智

研究主題は「数学的な見方・考え方を働かせながら、課題解決を図る生徒の育成」です。本習事項と既習事項との関わりに焦点をあてることを確認し、研究を進めていきます。

研究推進委員会の様子です。



# 道徳

## 対話や語り合いをとおして、多角的・多面的な視点から考えを深める授業をどうつくっていくか？

道徳的価値の理解を深めることは様々な視点から考えることと関係します。

「考え、議論する道徳」授業をとおして、深い学びにいたるために、「多角的・多面的」、「対話」、「語り合い」をキーワードに授業づくりに取り組んでいきます。



全県部長  
新潟市立白南中学校  
校長 和泉 哲章

### ▶上越地区

#### 語り合いを通して深い学びへ！



妙高市中教研  
妙高市立新井中学校  
平野 彰子

「深い学びの姿」を「語り合いを通して、よりよい生き方を求める姿」としました。物事を広い視野から多角的・多角的に考え、生き方について考えを深める授業を目指します。

第1回研究推進委員会の様子  
（「深い学びの姿」の共有）



### ▶新潟地区

#### 多面的・多角的に捉え、最適解・納得解を導く授業展開へ



新潟市中教研  
新潟市立亀田西中学校  
石川 千秋

教材、先哲、他者及び自己との対話を通して、課題を多面的・多角的に捉え、最適解・納得解を導く授業展開について研究を進めていきます。

指導案検討会の様子



### ▶中越地区

#### めざす学びの姿を共有！



見附市中教研  
見附市立南中学校  
川上 綾子

研究推進委員会で、日頃の授業の課題について話し合い、めざす学びの姿を共有しました。主題を踏まえて生徒が課題を自分事として捉え、対話を通して考えを広げたり深めたりする授業を目指します。

11月に見附市立見附中学校  
2年生で授業公開予定



### ▶下越地区

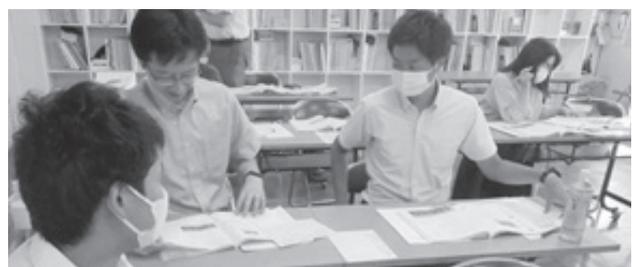
#### 道徳的諸価値の理解を深める授業を目指して！



村上市岩船郡中教研  
村上市立荒川中学校  
目黒 雄介

他者対話や自己対話による思考のプロセスを大切にしながら、道徳的諸価値（価値理解・人間理解・他者理解）の理解を深める授業づくりに向けた授業構成や指導の工夫について研究を進めていきます。

研究推進委員の授業づくり  
研修の様子



# 美術

美しいものに素直に感動し、感性を豊かにする。  
 さまざまな価値観に出会い、他者との共生を学ぶ。  
 創造的に思考し、問題を解決する。  
 そんな美術の学びを通して、これからの未来を担う生徒を育みます。



全県部長  
 五泉市立村松桜中学校  
 校長 稲生 一徳

# 技術・家庭

長岡・三島地区は県ロボコン大会企画・運営などのノウハウを生かした実践、佐渡地区は複数校兼務での地域密着の実践、地域色を踏まえた研究です。時間軸の学びである主体的な学びと平面軸である対話的な学びの相乗効果で深い学びを創出するよう取り組みます。



全県部長  
 南魚沼市立大和中学校  
 校長 青木 新一

## ▶上越地区

### 豊かな生き方を目指す美術授業



柏崎市刈羽郡中教研  
 柏崎市立松浜中学校  
 上 雅次

美術の深い学びとして、「豊かな生き方ができる」ことを目標に研究を進めます。互いを認め合う力や自己肯定感、達成感の向上のため、表現と鑑賞の往還や魅力的な題材、ICT活用を検討します。

6月30日 第1回研究推進委員会の様子



## ▶中越地区

### 経験や生活の中から深い学びを



長岡市・三島郡中教研  
 長岡市立堤岡中学校  
 加藤 尚徳

生徒自身の経験や生活や社会の中の問題点から、最適化を図ることができる教材を研究しています。また、それぞれの最適解を共有することで深い学びを実現していきます。

中越地区中学校1年生の技術授業の様子



## ▶新潟地区

### 往還でひらめく深化した学び！



新潟市中教研  
 新潟市立濁川中学校  
 石井 隆浩

「深い学び」のカギは何か。「できるかもしれない、わかるかもしれない、面白そう」が力になって、行きつ戻りつしながら応えにたどり着く授業を目指します。

研究推進委員会の様子



## ▶下越地区

### 伝統文化から深い学びを！



佐渡市中教研  
 佐渡市立金井中学校  
 窪間 厚浩

伝統文化の継承が受け継がれている地域性を活かした題材開発と、課題解決的な授業を構築することを通して生徒の深い学びを追究します。

ゲストティーチャーとの打ち合わせの様子



# 特別活動

学級活動(3)と小中連携した生徒会活動で「人間関係形成、社会参画、自己実現」に関わる資質・能力の育成につながる実践の提案に向けて、各地区で協議、検討しています。



全県部長  
三条市立第一中学校  
校長 田村 和弘

# 総合的な学習の時間

研究推進委員が中心となり、課題を踏まえた単元計画の見直し、目指す深い学びの姿を促すために設定した方策を具体的な手立てとして落とし込んだ授業過程の実施・検証を継続中です。



全県部長  
新潟市立岩室中学校  
校長 本多 豊

## ▶中越地区

自己実現を目指す態度を育む！



小千谷市が進めるキャリア教育を踏まえ、「築きたい人間関係」「つくりたい社会」「なりたい自分」に迫る実践を展開します。

小千谷市中教研  
小千谷市立南中学校  
近藤 尚子

研究推進委員会では、目指す生徒の姿について協議しました。



## ▶上越地区

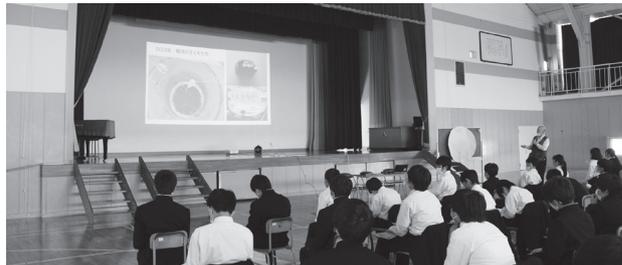
デザイン思考で地域を活性化



三和区総合事務所や商工会、企業と連携を図り、地域の方と話し合いながら、デザイン思考を活用して特産品の開発やCMづくり、観光マップづくりなどの地域活性化を目指した課題解決の単元開発に取り組んでいます。

上越市中教研  
上越市立頸城中学校  
中澤 優子

谷内池オニバス開花プロジェクト2023 (三和中学校)



## ▶下越地区

生徒会中心に、学校生活の充実を目指します！



生徒自身が課題を見つけ、解決していく活動を通して、集団としての学びが深まる姿を目指します。小中連携の良さを生かし、生徒会活動を軸に、生徒にとってより良い人間関係作りにつながる価値ある実践を検討していきます。

阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研  
阿賀野市立安田中学校  
近藤 卓

8月18日に実施した第3回研究推進委員会の様子



## ▶新潟地区

深い学びのある単元を目指す



アントレプレナーシップ教育を取り入れた3年間の単元計画を検討しました。探究の過程の充実を図り、発表活動で終わらない、深い学びの具体化を目指しています。

新潟市中教研  
新潟市立小針中学校  
吉田 新

検討会の様子



### 3 15部会の重点目標

各教科・領域において検討し、更新をしています。指定研究の内容と共に授業づくりの参考にしてください。

国語	<p>言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもつことができる国語の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。</li> <li>○ 考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。</li> <li>○ 話の内容や意図に応じた表現力を育てる。</li> <li>○ 目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。</li> </ul>
社会	<p>自ら考え自ら学び、確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の学ぶ意欲を高めるために、主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。</li> <li>○ 学び合い深め合う学習を実現するために、適切な課題を設けて行う学習の充実を図り、小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。</li> <li>○ 資料を選択し活用して、自分の考えを記述・発表する力を育てる。</li> </ul>
数学	<p>「数学的な見方・考え方」「数学的活動」をより意識した授業づくりを推進し、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数学的活動における「数学化」の過程を大切に、「数学的に表現された問題」の設定に生徒が主体的に関わることができるようにする。</li> <li>○ 「数学的な見方」「数学的な考え方」それぞれの側面を踏まえ、数学的活動の適所に「数学的な見方・考え方」を働かせる機会を意図的に設定する。</li> <li>○ 問題発見・解決の過程において働かせた見方・考え方を振り返る場面を設定し、「数学的な見方・考え方」をより豊かなものとして生徒への蓄積を図る。</li> </ul>
理科	<p>目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観察や実験の予想を検討したり、結果を整理し考察・吟味したりする学習活動の充実を図ることを通して、目的意識に裏打ちされた科学的な思考力、表現力を高める。</li> <li>○ 他者との関わりや問題解決的な活動において、生徒が科学的な見方・考え方を働かせるための手立てを行う。</li> <li>○ 地域の環境や学校の実態を生かした自然体験、科学的な体験を通じた実感を重視し、自然事象の認識と科学への興味、関心を一層高める。</li> </ul>
音楽	<p>生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業を展開する。</li> <li>○ 音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。</li> </ul>
美術	<p>美術を通して、コミュニケーションができ、豊かな生き方ができる生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 形や色彩など造形的な美しさを表現したり、鑑賞したりする授業を通して、お互いの見方や感じ方を認め合う生徒を育てる。</li> </ul>
保健体育	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、明るく豊かなスポーツライフを実現する資質能力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の実態把握の充実</li> <li>○ 保健体育の見方・考え方を働かせることを意識した授業</li> <li>○ 学習過程、単元構成の見直し、工夫及び指導と評価の一体化の工夫、充実</li> <li>○ 楽しい授業、UDLの推進</li> <li>○ 個に応じた運動量の確保と体力の向上</li> </ul>
技術・家庭	<p>実践的・体験的な学習活動を通して基礎的・基本的な知識及び技術を身に付けるとともに、学習したことを生かして、よりよい生活、社会を目指そうとする能力と態度の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活実態や社会状況を適切に把握し、学習意欲を高め、生活との関連を重視した指導計画や教材開発に努める。</li> <li>○ 学習結果や技術と家庭や社会との望ましい関係等について、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動場面を設定する。</li> </ul>

英語	<p>学習指導要領（外国語）の趣旨を正しく理解し、その目標を実現する取組を着実に推進する中で、適切な言語活動を通して、英語で目指す資質・能力を確実に育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ CAN-DOリストから単元の学習到達目標を設定・共有し、どの生徒も無理なく目標に迫ることができるように指導内容をバックワードで配列して行う指導を徹底する。</li> <li>○ 学習指導要領に示されている4技能5領域における言語活動例を視点に、折に触れて自校の指導の現状をチェックし、領域に偏りがないようバランスよく指導する。</li> <li>○ 即興的な表現力を育む言語活動を継続的に授業に位置づけ、進歩を実感させながら生徒の主体性や学習意欲を維持・増進させ、自立して学び続ける生徒を育成する。</li> </ul>
道徳	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、各校の実態を考慮して、重点目標を設定するなどして、道徳教育の全体計画及び年間指導計画を作成する。</li> <li>2 自分事としての課題になるように、道徳的諸価値の理解を基にして、生徒の考えやこれまでの生き方を確認させるなどの働きかけを工夫する。</li> <li>3 考え、議論させるために、多面的・多角的な視点からの重層的な発問や体験的な学習などを取り入れ、「自分を語る」授業を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 登場人物への自我関与中心の学習</li> <li>イ 生きる上で出会う課題に対する問題解決的な学習</li> <li>ウ 道徳的行為に関する体験的な学習</li> </ul> </li> </ol>
特別活動	<p>望ましい人間関係を築き、集団や社会の一員として、よりよい集団生活を実現する生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実を図る。</li> <li>○ 自分の考えを発表したり、他と交流したりしながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定する。</li> </ul>
生徒指導	<p>いじめや問題行動、不登校の未然防止と早期発見・早期対応に努めるため、組織的・計画的な生徒指導を推進する。その際、対応のみに終始することなく、自他の個性を尊重し、生徒が互いに認め合い、協力し合うよりよい人間関係の構築を目指し、生徒の自己指導能力と社会性の育成を基盤とした生徒指導に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめは対人関係における問題との視点に立ち、全教育活動を通じて人権感覚を養うとともに、生徒主体の社会性育成活動を実施し、明確な指導方針のもとに組織的な取組を進める。</li> <li>○ すべての生徒にとって居心地のよい学校を目指し、将来の社会的自立に向けた生き方支援に努める。特に生命や性、SNS等に関わる今日的な問題については、家庭や地域、関係機関とも連携した粘り強い取組を進める。</li> <li>○ 中学校区の小学校及び関係機関との情報交換や行動連携に努め、自然体験や社会奉仕体験、職場体験などによる地域社会との関わりを通して、自律性や主体性を育む。</li> </ul>
進路指導	<p>自らの生き方を考え、夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己理解を深める指導を充実させる。</li> <li>○ 生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。</li> <li>○ 勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<p>学習過程と評価を中核に、主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習過程において、「課題設定」を工夫し、「協働的な学習」と「言語活動」を適切に位置付けることを通して、探究的な学習の充実を図る。</li> <li>○ 「育てようとする資質や能力及び態度」の視点に配慮した評価の観点を定め、それに基づいて生徒の具体的な学習状況を想定した評価規準を設定し、学習評価の充実を図る。</li> </ul>
学校保健	<p>生きる力を育む健康教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携・協働しながら組織的に取り組む健康教育活動を展開する。</li> <li>○ 生徒の健康管理能力を育成するための養護教諭の支援の在り方について研修を進める。</li> </ul>

# 編集後記

新潟県中学校教育研究会

理事長 佐藤 靖子

(新潟市立内野中学校 校長)



## 生きて働く学びへ

教室に対話のある学びの姿が本格的に戻って参りました。生徒の手元には当たり前のようにICT機器があり、画面を指さしながら自分の考えを述べ、他者の意見へ質問をしています。対話型の授業は、一人一人の異なった経験や知識を共有の財産として、具体的な事象から抽象的な概念の獲得、一般化、普遍化していく過程に意味があると考えます。昨年度から「授業情報誌Class」には、①目指す深い学びの姿 ②深い学びにいたるポイント・過程 ③指定研究報告が掲載されています。指定研究チームが提案した単元（題材）の様子を参考に、各教職員が目の前の生徒に合わせた自校化へとそれぞれが工夫し、毎日の授業や研修に使ってみたいくなるコンセプトで発刊しています。

今年度、新潟県中学校教育研究会は創設60周年を迎えました。創設50周年からの10年間の研究歩みについて辿るだけでも、新潟県教育は21世紀に求められている資質・能力の育成について真摯に応え、積み上げた歴史を感じます。「なぜ、新潟県の多くの中学生たちはFTを用いてスムーズに対話ができるのですか？」と他県の方々が驚くほど生徒にFTが定着したのは県内のどの地区、郡市中学校教育研究会でも教職員同士がFTで研修し合い、学び合う授業を創ってきたからだと思えます。教師の一斉講義型授業から生徒による「主体的・対話的で深い学び」への変革、内容中心から資質・能力中心へと大きく授業が変化しています。この間、新学習指導要の移行期間に入り、令和3年度の中学校全面実施時期においては、新型コロナウイルス感染症蔓延時期にあたり、感染予防に努めながら「学びを止めない」を合言葉に各教職員が創意工夫のもとで対話型授業を実践して参りました。「授業情報誌Class 第6号 2021」の別刊リーフレットには、県内各校で学びを止めない研究・研修や、人権意識を高くしながら密集・密接を避ける授業の様子、工夫あふれる総合的な学習や行事・諸活動が掲載され、頑張る生徒を支え挑戦し続ける教職員の姿に勇気を頂き、感動を覚えました。

いよいよパンデミックも収束しつつあります。GIGAスクール構想で教室環境も飛躍的に変わり、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実が図れるようになりました。生徒それぞれが課題解決者となれるよう教職員は学びを生きて働くものにしていく使命があります。

この度、創設60周年記念事業では、記念講演会講師に早稲田大学教職大学院教授田中博之様をお招きし、「深い学びのこれから」についてご講演いただき、本誌へも特別に寄稿を頂戴しております。繰り返しお読み頂いたり本研究会HPのオンデマンド配信をご覧頂いたりし、これからの時代に必要な学びを最大限に引き出せる授業づくりの参考にしていただければ幸いです。

新潟県中学校教育研究会は、2年間の指定研究推進事業と、その研究の成果を全会員に伝える「授業情報誌Class」の両輪でこれからも全県の授業を支えて参ります。

12月8日創設60周年にはご講演、また、本誌にご寄稿頂きました田中博之様をはじめ、指定研究に携わられた関係者の皆様と、本誌の編集にあたり、貴重な原稿をいただいた各全県部長・副部長・指定研究会各校の皆様、各研究推進委員の皆様、編集に携わった事務局に感謝を申し上げます。編集後記といたします。